

教養科目（平成29年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	摘要	
教養教育科目	総合		総合教養講座	2	30	1・2	後期	清水 浩		8・9月開講	
			教養ゼミ	②	30	1	前期				
			キャリア形成支援講座	1	15	1	集中	後藤 和也			
	主題別科目	60110	60111	心理学（火曜Ⅱ限）	2	30	1・2	前期	清水 浩	○	教職必修 栄養大との合同授業(単位互換による) 8・9月開講
		60110	60112	〃（火曜Ⅲ限）							
		60121		歴史と文学	2	30	1・2	後期	岩原 真代		
		60130		日本国憲法	2	30	1・2	後期	堀田 学		
		60140		国際関係論	2	30	1・2	後期	堀田 学		
		60150		現代社会論	2	30	1・2	集中	坂口 奈央		
		60160		ジェンダー論	2	30	1・2	前期	松田 澄子		
60180			人間発達論	2	30	1・2	前期	鈴木 一憲			
60190			健康と栄養	2	30	1・2	前期	鈴木 道子			
60200		芸術学	2	30	1・2	前期	石澤 靖典	今年度に限り開講			
情報リテラシー	60210	60211	情報処理演習Ⅰ（水曜Ⅱ限）	2	30	1・2	前期	鈴木 久美	②	英語英文指定 国語国文指定 社会情報指定 日本史指定 国語国文指定 国語国文・日本史指定 国語国文指定 英語英文指定 社会情報・日本史指定	
	60210	60212	〃（木曜Ⅰ限）					小池 隆太			
	60210	60213	〃（水曜Ⅲ限）	清水 浩							
	60210	60214	〃（水曜Ⅳ限）	中川 恵							
	60210	60215	〃（金曜Ⅰ限）	松下 幸生							
	60220	60221	情報処理演習Ⅱ（水曜Ⅰ限）	2	30	1・2	後期	鈴木 久美			
	60220	60223	〃（木曜Ⅰ限）					西川 友子			
	60220	60224	〃（水曜Ⅲ限）	松下 幸生							
	60220	60225	〃（火曜Ⅰ限）	清水 浩							
	60260		応用情報処理演習Ⅰ	2	30	2	前期	西川 友子			
60270		応用情報処理演習Ⅱ	2	30	2	前期	伊豆田義人				
60280		応用情報処理演習Ⅲ	2	30	2	後期	伊豆田義人				
共通基礎科目	外国語		英語一	2	30	1・2	前期	横山 利夫	②	国語国文学科 日本史学科 社会情報学科	
			60320				英語二	後期			北山 長貴
			60330				英語三	前期			横山 利夫
			60340				英語四	後期			渡邊真由美
			60350				英語五	後期			小林 亜希
			60360				英語六	前期			阿部 隆夫
			60370				英語七	後期			松井 真人
			60380				英語八	前期			太田 裕子
			60390				英語九	後期			金子 淳
			60400				英会話A	前期			マーニ・タウ・アコリ
	60410	英会話B	前期	マーニ・タウ・アコリ							
	60420	英会話C	後期	マーニ・タウ・アコリ							
	60430	英会話D	後期	マーニ・タウ・アコリ							
	60450		海外語学実習	3	90	1・2	集中	英文専任教員	9月開講		
	60460	60461	フランス語一（月曜Ⅱ限）	2	②	30	1・2	前期	石田 雄樹	初修者は「フランス語一」或いは「中国語一」を履修することが望ましい	
	60460	60462	〃（月曜Ⅳ限）								
	60470	60471	フランス語二（月曜Ⅱ限）	2	30	1・2	後期	石田 雄樹			
	60470	60472	〃（月曜Ⅳ限）								
	60480		フランス語三	2	30	1・2	前期	石田 雄樹			
	60490		フランス語四	2	30	1・2	後期	石田 雄樹			
	60500	60501	中国語一（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	前期	齋藤 知広	英語英文・日本史指定		
	60500	60502	〃（月曜Ⅳ限）					齋藤 知広			
	60500	60503	〃（月曜Ⅱ限）	2	30	1・2	後期	解 澤春	国語国文・社会情報指定		
60500	60504	〃（月曜Ⅲ限）	解 澤春								
60510	60511	中国語二（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	後期	齋藤 知広				
60510	60512	〃（月曜Ⅳ限）					齋藤 知広				
60510	60513	〃（月曜Ⅱ限）	2	30	1・2	前期	解 澤春				
60510	60514	〃（月曜Ⅲ限）					解 澤春				
60520		中国語三	2	30	1・2	前期	齋藤 知広				
60530		中国語四	2	30	1・2	後期	齋藤 知広				

教養科目（平成29年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	摘要	
共通基礎科目	60460	60461	フランス語一（月曜Ⅱ限）	2	30	1・2	前期	石田 雄樹		〔 英語英文学科 〕	
	60460	60462	〃（月曜Ⅳ限）								
	60470	60471	フランス語二（月曜Ⅱ限）	2	30	1・2	後期	石田 雄樹			
	60470	60472	〃（月曜Ⅳ限）								
	60480		フランス語三	2	30	1・2	前期	石田 雄樹			
	60490		フランス語四	2	30	1・2	後期	石田 雄樹			
	60500	60501	中国語一（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	前期	齋藤 知広			
	60500	60502	〃（月曜Ⅳ限）								
	60500	60503	〃（月曜Ⅱ限）								
	60510	60511	中国語二（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	後期	齋藤 知広			
	60510	60512	〃（月曜Ⅳ限）								
	60510	60513	〃（月曜Ⅱ限）	2	30	1・2	後期	齋藤 知広			
	60510	60514	〃（月曜Ⅲ限）								
	60520		中国語三	2	30	1・2	前期	齋藤 知広			
	60530		中国語四	2	30	1・2	後期	齋藤 知広			
	60450		海外語学実習	3	90	1・2	集中	英文専任教員			9月開講
	保健体育	60610		スポーツ実技一	1	30	1・2	前期			比留間 浩介
60620			スポーツ実技二	個人種目スポーツ							
60630			スポーツ実技三	団体種目スポーツ							
60640			スポーツ実技四	団体種目スポーツ							
60650			スポーツ実技五	レクリエーション・スポーツ							
60660			スポーツ実技六	レクリエーション・スポーツ							
60670			スポーツ実技七	フィットネス							
60680			スポーツ実技八	フィットネス							
60690			スポーツ実技九	8・9月開講							
60700			スポーツ実技十	冬季開講予定							
60710			健康理論 ※1	1					15	1・2	
60720		スポーツ文化論 ※1	2	30	1・2	前期	比留間 浩介				

(注) ○数字は必修単位、)○数字は選択必修単位

「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる

※1 「健康理論」及び「スポーツ文化論」は卒業要件のスポーツ実技の単位に含まれないので注意すること

教養科目（平成30年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	摘要
教養教育科目	総合	60010	総合教養講座	2	30	1・2	後期	清水 浩		授業コード別掲 8・9月開講
		65000	別掲 教養ゼミ	②	30	1	前期	(別掲)		
		60030	キャリア形成支援講座	1	15	1	集中	後藤 和也		
	主題別科目	60110	60111	心理学（火曜Ⅱ限）	2	30	1・2	前期	清水 浩	○ 教職必修 栄大との合同授業(単位互換による) 栄大との合同授業(単位互換による) 8・9月開講  今年度に限り開講
		60110	60112	〃（火曜Ⅲ限）						
		60121	歴史と文学	2	30	1・2	後期	岩原 真代		
		60130	日本国憲法	2	30	1・2	後期	堀田 学		
		60140	国際関係論	2	30	1・2	後期	堀田 学		
		60150	現代社会論	2	30	1・2	集中	坂口 奈央		
		60160	ジェンダー論	2	30	1・2	前期	松田 澄子		
60180		人間発達論	2	30	1・2	前期	鈴木 一憲			
60190		健康と栄養	2	30	1・2	前期	鈴木 道子			
60200	芸術学	2	30	1・2	前期	石澤 靖典				
情報リテラシー	60210	60211	情報処理演習Ⅰ（水曜Ⅱ限）	2	30	1・2	前期	鈴木 久美	② 英語英文指定 国語国文指定 社会情報指定 日本史指定 国語国文指定 国語国文・日本史指定 国語国文指定 英語英文指定 社会情報・日本史指定  「簿記会計演習」又は「応用情報処理演習Ⅱ」を受講していることが望ましい	
	60210	60212	〃（木曜Ⅰ限）					小池 隆太		
	60210	60213	〃（水曜Ⅲ限）	清水 浩						
	60210	60214	〃（水曜Ⅳ限）	中川 恵						
	60210	60215	〃（金曜Ⅰ限）	松下 幸生						
	60220	60221	情報処理演習Ⅱ（水曜Ⅰ限）	2	30	1・2	後期	鈴木 久美		
	60220	60223	〃（木曜Ⅰ限）	西川 友子						
	60220	60224	〃（水曜Ⅲ限）	松下 幸生						
	60220	60225	〃（火曜Ⅰ限）	清水 浩						
	60260	応用情報処理演習Ⅰ	2	30	1・2	前期	西川 友子			
60270	応用情報処理演習Ⅱ	2	30	1・2	前期	伊豆田義人				
60280	応用情報処理演習Ⅲ	2	30	1・2	後期	伊豆田義人				
共通基礎科目	外国語	60310	英語一	2	30	1・2	前期	横山 利夫	② 国語国文学科 日本史学科 社会情報学科  日本史・社会情報指定 国語国文指定  9月開講  初修者は「フランス語一」或いは「中国語一」を履修することが望ましい  英語英文・日本史指定  国語国文・社会情報指定	
		60320	英語二				後期	北山 長貴		
		60330	英語三				前期	横山 利夫		
		60340	英語四				後期	渡邊真由美		
		60350	英語五				後期	小林 亜希		
		60360	英語六				前期	阿部 隆夫		
		60370	英語七				後期	松井 真人		
		60380	英語八				前期	太田 裕子		
		60390	英語九				後期	金子 淳		
		60400	英会話A				2	30		1・2
	60410	英会話B	2	30	1・2	前期	マーニ・タウ・アコリ			
	60420	英会話C	2	30	1・2	後期	マーニ・タウ・アコリ			
	60430	英会話D	2	30	1・2	後期	マーニ・タウ・アコリ			
	60450	海外語学実習	3	90	1	集中	英文専任教員			
	60451	異文化理解実習	2	60	2	集中	英文専任教員			
	60460	60461	フランス語一（月曜Ⅱ限）	2	② 30	1・2	前期	石田 雄樹		
	60460	60462	〃（月曜Ⅳ限）							
	60470	60471	フランス語二（月曜Ⅱ限）	2	30	1・2	後期	石田 雄樹		
	60470	60472	〃（月曜Ⅳ限）							
	60480	フランス語三	2	30	1・2	前期	石田 雄樹			
	60490	フランス語四	2	30	1・2	後期	石田 雄樹			
	60500	60501	中国語一（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	前期	齋藤 知広		
	60500	60502	〃（月曜Ⅳ限）					齋藤 知広		
60500	60503	〃（月曜Ⅱ限）	解 澤春							
60500	60504	〃（月曜Ⅲ限）	解 澤春							
60510	60511	中国語二（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	後期	齋藤 知広			
60510	60512	〃（月曜Ⅳ限）					齋藤 知広			
60510	60513	〃（月曜Ⅱ限）					解 澤春			
60510	60514	〃（月曜Ⅲ限）					解 澤春			
60520	中国語三	2	30	1・2	前期	齋藤 知広				
60530	中国語四	2	30	1・2	後期	齋藤 知広				

教養科目（平成30年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	摘要					
外国語 (英語英文学科)	60460	60461	フランス語一 (月曜Ⅱ限)	2	30	1・2	前期	石田 雄樹		[ 英語英文学科 ]					
	60460	60462	〃 (月曜Ⅳ限)												
	60470	60471	フランス語二 (月曜Ⅱ限)	2	30	1・2	後期	石田 雄樹							
	60470	60472	〃 (月曜Ⅳ限)												
	60480		フランス語三	2	30	1・2	前期	石田 雄樹							
	60490		フランス語四	2	30	1・2	後期	石田 雄樹							
	60500	60501	中国語一 (月曜Ⅲ限)	2	30	1・2	前期	齋藤 知広							
	60500	60502	〃 (月曜Ⅳ限)					齋藤 知広							
	60500	60503	〃 (月曜Ⅱ限)					解 澤春							
	60510	60511	中国語二 (月曜Ⅲ限)	2	30	1・2	後期	齋藤 知広							
	60510	60512	〃 (月曜Ⅳ限)					齋藤 知広							
	60510	60513	〃 (月曜Ⅱ限)	3	90	1	集中	英文専任教員							
	60510	60514	〃 (月曜Ⅲ限)					英文専任教員							
	60520		中国語三	2	30	1・2	前期	齋藤 知広							
	60530		中国語四	2	30	1・2	後期	齋藤 知広							
	60450		海外語学実習	3	90	1	集中	英文専任教員							
		異文化理解実習	2	60	2	集中	英文専任教員								
共通基礎科目	60610		スポーツ実技一	1	30	1・2	前期	比留間 浩介	②	個人種目スポーツ 個人種目スポーツ 団体種目スポーツ 団体種目スポーツ レクリエーション・スポーツ レクリエーション・スポーツ フィットネス フィットネス 8・9月開講 冬季開講予定					
	60620		スポーツ実技二								後期	渡邊・佐々木			
	60630		スポーツ実技三								前期	比留間 浩介			
	60640		スポーツ実技四								後期	渡邊・佐々木			
	60650		スポーツ実技五								前期	比留間 浩介			
	60660		スポーツ実技六								後期	渡邊・佐々木			
	60670		スポーツ実技七								前期	比留間 浩介			
	60680		スポーツ実技八								前期	比留間 浩介			
	60690		スポーツ実技九								集中	比留間 浩介			
	60700		スポーツ実技十								集中	池田 英治			
	60710		健康理論 ※1								1	15	1・2	後期	加藤 守匡
	60720		スポーツ文化論 ※1								2	30	1・2	前期	比留間 浩介

(注) ○数字は必修単位、)○数字は選択必修単位

「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる

※1 「健康理論」及び「スポーツ文化論」は卒業要件のスポーツ実技の単位に含まれないので注意すること

教養ゼミ 授業コード

学科	科目コード	授業コード	担当教員
国語 国文	65000	65011	馬場 重行
	65000	65012	高橋 永行
	65000	65013	山本 淳
	65000	65014	佐々木 紀一
	65000	65015	村瀬 桃子
	65000	65016	北口 己津子
	65000	65017	後藤 和也
	65000	65018	岡 英里奈
英語 英文	65000	65021	北山 長貴
	65000	65022	阿部 隆夫
	65000	65023	松井 真人
	65000	65024	横山 利夫
	65000	65025	畑田 秀将
	65000	65026	渡邊 真由美
	65000	65027	小林 亜希

学科	科目コード	授業コード	担当教員
日本史	65000	65031	松田 澄子
	65000	65032	藪部 寿樹
	65000	65033	小林 文雄
	65000	65035	布施 賢治
	65000	65036	原 淳一郎
	社会 情報	65000	65041
65000		65042	亀ヶ谷 雅彦
65000		65043	伊豆田 義人
65000		65044	小池 隆太
65000		65045	鈴木 久美
65000		65046	松下 幸生
65000		65047	西川 友子
65000		65048	比留間 浩介
65000		65049	中川 恵

※指定学年（1学年）以外の者が「教養ゼミ」の再履修を要する場合は、別途指示する

## 【教養ゼミ（科目コード 65000）のテーマ】

〔 担当教員＜授業コード＞  
・テーマ、メッセージ 〕

### 国語国文学科

馬場 重行 <65011>

- ・参加者全員で協力しながら、コミュニケーション能力を高めるためのレッスンをを行います。

高橋 永行 <65012>

- ・ロールプレイ、インプロゲームを体験してコミュニケーションスキルを磨きます。また学外施設への見学（休日利用）も予定しています。

山本 淳 <65013>

- ・米沢藩領に伝わる救荒書『かてもの』を原文で読みながら、食材に関する智慧を学びましょう。

佐々木紀一 <65014>

- ・くずし字入門 平仮名の草書体を学び、古典の仮名の美を堪能しましょう。

村瀬 桃子 <65015>

- ・LGBT や性暴力の問題について、小・中学生がわかるプレゼンを作る。文献検索等の方法も学ぶ。

北口己津子 <65016>

- ・深く絵本の「絵」を読んでみましょう。どのように読んだかを話し合いながら進めます。

後藤 和也 <65017>

- ・本職場の諸問題をテーマとして、ディスカッション等を通して短大生としての素養を高めます。

岡 英里奈 <65018>

- ・論理的な意見の立て方、その表現の仕方について学んでいきます。

### 英語英文学科

北山 長貴 <65021>

- ・アメリカの新聞広告を題材にプレゼンテーションの方法を学びます。そしてパワーポイントで資料を作成し、それを添付書類でメール送信できるようにします。

阿部 隆夫 <65022>

- ・参加生各自の将来の計画を構想し実現するための情報提供をする。主題例として、国際協力事業への参加、留学（例、正規、語学、インターンシップ）、就職（例、航空会社、公務員、外資系企業、新聞社）、進学、資格取得を扱う。そのほか外国語学習の新しいアプローチを取り扱う。

松井 真人 <65023>

- ・英語が世界各地でどのように使われているか、英語と日本語のコミュニケーションはどう違うか、といったことを学びます。

横山 利夫 <65024>

- ・大学・会社ではいろんなテーマでレポートの提出が求められます。このゼミではレポートの書き方の基本を習得し、自分が興味、関心のある社会・環境問題などについてレポートを作成する。

畑田 秀将 <65025>

- ・大学内や図書館を対象にした学生主体のサービスラーニングを行います。自分達の実現可能な企画を考え、提案し、実行します。

**渡邊真由美 <65026>**

- ・英語表現の豊かさを知ろう。エドワード・ゴア『ギャッシュリークラムのちびっ子たち』を参加者全員で翻訳していきます。英語原文のもつ不気味さを日本語にできるように考えていきます。

**小林 亜希 <65027>**

- ・個人的な好き嫌いを超えて、〈文化〉について考えるカルチュラル・スタディーズの入門ゼミです。主に、イギリスとアメリカの映画を題材にしたいと思います。

**日本史学科**

**松田 澄子 <65031>**

- ・幕末及び明治以降の女性の歴史をみつめよう。

**藺部 寿樹 <65032>**

- ・「まつり」を調べて楽しもう。

**小林 文雄 <65033>**

- ・伝統的な芸能や楽器に触れることで、様々な文化への理解を深めたいと思います。

**布施 賢治 <65035>**

- ・史料の講読や映像を通じて日本近代史について考える。

**原 淳一郎 <65036>**

- ・山形の食文化を学び、実際に食べましょう。みなさんの故郷との共通点や違いも考えましょう。

**社会情報学科**

**清水 浩 <65041>**

- ・絵本を通して、作者の世界観や子ども観を考察します。絵本の読み聞かせも実際にやってみましょう。

**亀ヶ谷雅彦 <65042>**

- ・韓国語の読み方を勉強した後で、韓流・華流の映画や音楽、食文化を堪能します。

**伊豆田義人 <65043>**

- ・英語検定 TOEIC 等を念頭においた英語長文の読解を行う。毎週、要予習および課題の提出。

**小池 隆太 <65044>**

- ・ゲームの構造分析と制作。ボードゲームやカードゲームをシステム論の観点から考察する。

**鈴木 久美 <65045>**

- ・論理パズルを解き、可能ならば作成します。

**松下 幸生 <65046>**

- ・「労働とはなにか」というテーマを通じて、知識を深め発言できるようにすることが目的です。

**西川 友子 <65047>**

- ・『歩く、見つけ出す、米沢のまち』：設定したニッチな主題について、米沢市内のごく限られた町の中を歩いて探し出し、米沢のマニアックな一面を掘り起こしたい。

**比留間浩介 <65048>**

- ・身体を上手に動かすための方法について、文献調査や演習を通して考えていきます。

**中川 恵 <65049>**

- ・新書の購読。身近な社会問題について理解を深める。

講義科目名称：総合教養講座（60010）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
清水 浩			

授業のテーマ及び到達目標	受講生のキャリア形成の一助として本講座を開講する。 多彩な講師による実践的かつ専門性に基づいた話を幅広く聞くことによって、教養を高め、物の見方、捉え方をより豊かなものにし、将来の進路はもとより、人としての行い方や生き甲斐等について深く考えることを目標とする。
授業計画	別途掲示
授業概要	学外の講師により、各回完結型の講義を行う。講義内容は各回担当者によって多岐にわたるが、その道の専門家としての貴重な見解が聴取できる。また、この科目は地域貢献事業の一環として、広く県民の方々にも公開される。
テキスト	必要に応じて、資料等を配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	各界の現場で活躍する方々を講師として、毎回設定します。実社会での生の話が伺える貴重な機会ですので、なるべく多くの学生の履修を希望します。
評価方法	課題レポート30%、授業への参加度70%。 レポート課題は、12月中に掲示または印刷物配布をもってお知らせいたします。
参考文献	各回の講師とテーマは、後期開始直前に本学ホームページに掲載します。
備考	

講義科目名称：教養ゼミ（65000）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
本学専任教員			
授業のテーマ及び到達目標	<p>入学初年度の学生に対してスタートアップスキル養成のための授業として開講する。到達目標は以下二点である。</p> <p>1. 教員と学生、あるいは学生同士の人格的な交わりを通して、大学における学習と高校までの勉強との違いを理解し、大学で学ぶことの意味を自覚できる。</p> <p>2. 自分を表現する能力、発表能力、文章作成能力などを高め、また、短大の2年間の自発的な学習意欲を高められる。</p>		
授業計画	－		
授業概要	<p>本学の全専任教員が分担して、所属学科の10名程度の学生を相手に少人数授業を行う。授業は「学生主体型」で進められ、グループ討議、ディベート、実験、社会調査、施設めぐり、など様々な学習形態が取り入れられている。</p> <p>全体テーマは「自分と出会う」「社会と出会う」であり、具体的な授業計画は担当教員が決定する。なお、担当教員ごとのテーマは【教養ゼミのテーマ&lt;科目コード&gt;】のページを参照されたい。</p>		
テキスト	開講時に担当教員が指示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>教養ゼミは、短大生活に対する新入生の期待や勉強への意気込みを萎えさせることなく、新入生の学習意欲を高め、それを持続させていくために設けられた科目です。この科目を通じて学友や教員と出会い、また、本学での授業や生活に慣れて、今後の学びにつなげるようにしてください。</p>		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート、授業への参加度、授業形態などで評価する。</li> <li>・具体的な評価方法は担当教員が決定する。</li> </ul>		
参考文献			
備考			



## 【教養ゼミ（科目コード 65000）のテーマ】

〔 担当教員＜授業コード＞  
・テーマ、メッセージ 〕

### 国語国文学科

馬場 重行 <65011>

- ・参加者全員で協力しながら、コミュニケーション能力を高めるためのレッスンをを行います。

高橋 永行 <65012>

- ・ロールプレイ、インプロゲームを体験してコミュニケーションスキルを磨きます。また学外施設への見学（休日利用）も予定しています。

山本 淳 <65013>

- ・米沢藩領に伝わる救荒書『かてもの』を原文で読みながら、食材に関する智慧を学びましょう。

佐々木紀一 <65014>

- ・くずし字入門 平仮名の草書体を学び、古典の仮名の美を堪能しましょう。

村瀬 桃子 <65015>

- ・LGBT や性暴力の問題について、小・中学生がわかるプレゼンを作る。文献検索等の方法も学ぶ。

北口己津子 <65016>

- ・深く絵本の「絵」を読んでみましょう。どのように読んだかを話し合いながら進めます。

後藤 和也 <65017>

- ・本職場の諸問題をテーマとして、ディスカッション等を通して短大生としての素養を高めます。

岡 英里奈 <65018>

- ・論理的な意見の立て方、その表現の仕方について学んでいきます。

### 英語英文学科

北山 長貴 <65021>

- ・アメリカの新聞広告を題材にプレゼンテーションの方法を学びます。そしてパワーポイントで資料を作成し、それを添付書類でメール送信できるようにします。

阿部 隆夫 <65022>

- ・参加生各自の将来の計画を構想し実現するための情報提供をする。主題例として、国際協力事業への参加、留学（例、正規、語学、インターンシップ）、就職（例、航空会社、公務員、外資系企業、新聞社）、進学、資格取得を扱う。そのほか外国語学習の新しいアプローチを取り扱う。

松井 真人 <65023>

- ・英語が世界各地でどのように使われているか、英語と日本語のコミュニケーションはどう違うか、といったことを学びます。

横山 利夫 <65024>

- ・大学・会社ではいろんなテーマでレポートの提出が求められます。このゼミではレポートの書き方の基本を習得し、自分が興味、関心のある社会・環境問題などについてレポートを作成する。

畑田 秀将 <65025>

- ・大学内や図書館を対象にした学生主体のサービスラーニングを行います。自分達の実現可能な企画を考え、提案し、実行します。

**渡邊真由美 <65026>**

- ・英語表現の豊かさを知ろう。エドワード・ゴア『ギャッシュリークラムのちびっ子たち』を参加者全員で翻訳していきます。英語原文のもつ不気味さを日本語にできるように考えていきます。

**小林 亜希 <65027>**

- ・個人的な好き嫌いを超えて、〈文化〉について考えるカルチュラル・スタディーズの入門ゼミです。主に、イギリスとアメリカの映画を題材にしたいと思います。

**日本史学科**

**松田 澄子 <65031>**

- ・幕末及び明治以降の女性の歴史をみつめよう。

**藺部 寿樹 <65032>**

- ・「まつり」を調べて楽しもう。

**小林 文雄 <65033>**

- ・伝統的な芸能や楽器に触れることで、様々な文化への理解を深めたいと思います。

**布施 賢治 <65035>**

- ・史料の講読や映像を通じて日本近代史について考える。

**原 淳一郎 <65036>**

- ・山形の食文化を学び、実際に食べましょう。みなさんの故郷との共通点や違いも考えましょう。

**社会情報学科**

**清水 浩 <65041>**

- ・絵本を通して、作者の世界観や子ども観を考察します。絵本の読み聞かせも実際にやってみましょう。

**亀ヶ谷雅彦 <65042>**

- ・韓国語の読み方を勉強した後で、韓流・華流の映画や音楽、食文化を堪能します。

**伊豆田義人 <65043>**

- ・英語検定 TOEIC 等を念頭においた英語長文の読解を行う。毎週、要予習および課題の提出。

**小池 隆太 <65044>**

- ・ゲームの構造分析と制作。ボードゲームやカードゲームをシステム論の観点から考察する。

**鈴木 久美 <65045>**

- ・論理パズルを解き、可能ならば作成します。

**松下 幸生 <65046>**

- ・「労働とはなにか」というテーマを通じて、知識を深め発言できるようにすることが目的です。

**西川 友子 <65047>**

- ・『歩く、見つけ出す、米沢のまち』：設定したニッチな主題について、米沢市内のごく限られた町の中を歩いて探し出し、米沢のマニアックな一面を掘り起こしたい。

**比留間浩介 <65048>**

- ・身体を上手に動かすための方法について、文献調査や演習を通して考えていきます。

**中川 恵 <65049>**

- ・新書の購読。身近な社会問題について理解を深める。

講義科目名称：キャリア形成支援講座（60030）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1	1	選択
担当教員			
後藤 和也			

授業のテーマ及び到達目標	<p>1 現在の学生生活と将来の職業生活の橋渡しとなる「キャリア」という考え方を学ぶ授業です。受講者は1年生を想定しています。</p> <p>2 知っているようで意外とわからないのが自分。自分の興味関心や強み・弱み、価値観等について、適切な自己理解（自己分析）をとおして明確にすることを一つの目標とします。</p> <p>3 そのような自己理解（自己分析）をとおして、より自分の興味関心に即した仕事について知り、就業意識を高めると同時に、4年制大学への編入も含めた今後のキャリアについて洞察を深めます。また、折に触れて昨今の就職活動に必要な不可欠な知識・スキルの習得を図ります。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション「よりよく人生を生きるために」</p> <p>第2回 自分を知る方法</p> <p>第3回 自己理解・自己分析</p> <p>第4回 就職と仕事と人生の関係</p> <p>第5回 業界を知る、会社を知る</p> <p>第6回 エントリーシートについて</p> <p>第7回 面接について・会社が学生に求めるもの</p> <p>第8回 まとめ</p>
授業概要	<p>自己理解・自己分析（質問に答えることにより自分を見つめる）、業界・企業研究、企業へのアプローチの仕方、採用試験の受け方</p> <p>※日程など受講に関する詳細は開講前に掲示します。</p> <p>講師：（株）キャリアクリエイト 浅野えみ氏</p>
テキスト	<p>プリントを配布します。</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>◆自己理解・自己分析により生き方を見つめる講座です。</p> <p>就職希望者だけでなく編入学希望者も受講してください。（4年制大学に編入学した年（3年生）から、すぐに就職活動が始まります）</p>
評価方法	<p>授業への参加度と課題で評価します。</p>
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
清水 浩			

授業のテーマ及び到達目標	1. 心理学の基本的な事項を実際的な体験を通して習得することをねらう。 2. 心理学を身近に感じることで、より深い人間理解へつなげる
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 恋愛心理・犯罪心理</p> <p>第3回 人間の感覚と知覚</p> <p>第4回 心理学実験体験（錯視）</p> <p>第5回 学習と記憶</p> <p>第6回 イメージの測定</p> <p>第7回 自分自身を知ろう（エゴグラム体験）</p> <p>第8回 乳幼児の心理</p> <p>第9回 児童の心理</p> <p>第10回 青年の心理</p> <p>第11回 親の心理</p> <p>第12回 高齢者の心理</p> <p>第13回 障害児者の心理(特性理解)</p> <p>第14回 障害者の心理(エピソードから学ぼう)</p> <p>第15回 授業のまとめ</p>
授業概要	人間の感覚・知覚を取り上げる。次にコミュニケーションゲームを通して、人間関係の構築・維持に役立つスキルやストレスマネジメントを体験的に理解します。その上で、パーソナリティの心理学的な捉え方を取り上げ、自分自身の理解も試みます。
テキスト	適宜資料を配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	学生の興味を引くように身近な事例を多く取り入れながら講義を進めていきます。ほぼ毎回コメントを求めますので、講義には積極的に臨むようにしてください。
評価方法	コメント（50%）、試験及びレポート（50%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：歴史と文学（60121）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
岩原 真代			

授業のテーマ及び到達目標	『大鏡』を通して平安時代の歴史と文学の関係性と意義を理解する。 史実や人物像を多角的にとらえる視点を養う。
授業計画	<p>第1回 『大鏡』概説</p> <p>第2回 『大鏡』序文①</p> <p>第3回 『大鏡』序文②</p> <p>第4回 帝紀－平安時代の天皇達－（文徳天皇～光孝天皇）</p> <p>第5回 帝紀（宇多天皇～円融院）</p> <p>第6回 帝紀（花山院～後一条院）</p> <p>第7回 大臣列伝－藤原摂関家と周辺の人物達－（左大臣冬嗣～太政大臣基経）</p> <p>第8回 大臣列伝（左大臣時平～左大臣仲平）</p> <p>第9回 大臣列伝（太政大臣忠平～左大臣師尹）</p> <p>第10回 大臣列伝（右大臣師輔～太政大臣兼通）</p> <p>第11回 大臣列伝（太政大臣為光～太政大臣公季）</p> <p>第12回 大臣列伝（太政大臣兼家～右大臣道兼）</p> <p>第13回 大臣列伝（太政大臣道長）</p> <p>第14回 藤原氏の物語</p> <p>第15回 昔物語</p>
授業概要	平安時代後期の歴史物語『大鏡』を讀解しながら、史実の諸相と人物造型を多角的に理解する。藤原摂関家に対して批判的な視座を持つ『大鏡』と好意的な『栄花物語』の表現の比較、古記録等の記事との差異を確認し、史実と虚構の間を讀み解く。
テキスト	石川徹校注『新潮日本古典集成 大鏡（新装版）』新潮社、定価2700円
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	平安時代の文学作品を讀む場合、歴史的な事実や事件の背景を知ることが大切です。また、歴史がどのように語られ、変容するかを確かめることで多角的な理解が深まります。積極的な讀みに参加して下さい。
評価方法	授業への参加の度合い（20%）、レポート（80%）等を以て評価する。
参考文献	新編日本古典文学全集『大鏡』小学館 保坂弘司著『大鏡全評釈 上・下』學燈社
備考	

講義科目名称：日本国憲法（60130）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職必修
担当教員			
堀田 学			

授業のテーマ及び到達目標	<p>〈授業のテーマ〉 日本国憲法は、人権と統治に分かれます。人権では、「表現の自由」や「社会権」などの問題に関連し、統治では国会や内閣、裁判所がその対象となります。憲法は遠い存在のように思えますが、実は身近な事象に関連するものでもあります。この講義では、日本国憲法の全体像をとらえ、自ら考え、答えを導けるようになることをめざします。</p> <p>〈到達目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本国憲法の構造を理解する。</li> <li>2. 憲法の規定に則って統治機構が動いていることを理解する。</li> <li>3. 人権概念を理解する。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 憲法の基礎</p> <p>第2回 参政権</p> <p>第3回 国会</p> <p>第4回 内閣</p> <p>第5回 裁判所</p> <p>第6回 象徴天皇制</p> <p>第7回 平和主義</p> <p>第8回 人権総論 1（人権の理念と歴史）</p> <p>第9回 人権総論 2（人権の享有主体性）</p> <p>第10回 信教の自由と政教分離</p> <p>第11回 表現の自由</p> <p>第12回 経済的自由</p> <p>第13回 人身の自由</p> <p>第14回 社会権</p> <p>第15回 幸福追求権</p>
授業概要	日本国憲法は、最高法規であるため様々な法律にもその理念が生きています。日本国憲法は、身近な生活にもその理念は活かされています。この授業では、日本国憲法の意義と課題について考えていきます。
テキスト	駒村圭吾編『プレステップ憲法』弘文堂、2014年
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自分の手を動かし書くことで理解も深まりますので、板書も多くしたいと思います。また、日々刻々と変化する社会の動きを把握するためにも、新聞やニュースに積極的に触れるようにしてください。
評価方法	期末試験（100%）で評価します。出席も毎回取ります。
参考文献	
備考	

講義科目名称：国際関係論（60140）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
堀田 学			

授業のテーマ及び到達目標	<p>〈授業のテーマ〉 この講義では、政治・経済・社会など多面的な側面から世界で起こっている様々な事象を理解し、考察できるようになることをめざします。</p> <p>〈到達目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際関係論の理論を理解する。</li> <li>2. グローバルな課題を理解する。</li> <li>3. 人権概念を理解する。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 国際関係論とは何か</p> <p>第2回 20世紀の国際関係1（2つの世界大戦と国際関係）</p> <p>第3回 20世紀の国際関係2（冷戦時代の国際関係）</p> <p>第4回 20世紀の国際関係3（1990年代のポスト冷戦時代の国際関係）</p> <p>第5回 現代の国際関係</p> <p>第6回 国際関係理論1（リアリズム）</p> <p>第7回 国際関係理論2（リベラリズム）</p> <p>第8回 国際機関</p> <p>第9回 欧州統合</p> <p>第10回 民族紛争・宗教対立</p> <p>第11回 環境問題</p> <p>第12回 食糧問題</p> <p>第13回 安全保障</p> <p>第14回 日本外交</p> <p>第15回 これからの国際関係</p>
授業概要	<p>現代の国際社会は、ボーダーレス化が進み、ヒトやモノ・マネーが行きかっています。また、グローバル化も進行し、言語・文化がひとつに収斂するよう思える一方で、反グローバル化の動きやそれに起因するポピュリズムの台頭なども世界各地で起こっています。この授業では多角的な視座から世界を見ることができるよう知識を得ることを目標とします。</p>
テキスト	<p>村田晃嗣ほか編『国際政治学をつかむ（新版）』有斐閣、2015年</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>ニュースや新聞などの国際面を読んで、刻々と変わる国際情勢の把握に努めてください。</p>
評価方法	<p>期末試験（100%）で評価します。出席も毎回取ります。</p>
参考文献	<p>佐渡友哲・信夫隆司編『国際関係論（第2版）』弘文堂、2016年 滝田賢治ほか編『国際関係学（第2版）』有信堂、2017年</p>
備考	

講義科目名称：現代社会論（60150）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	選択
担当教員			
坂口 奈央			

授業のテーマ及び到達目標	現代社会がどのような構造になっているのか、その特徴を理解するとともに、社会や社会問題に対する関心を高め、自分なりの見解をもつこと。
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 「現代社会」では今、何が起きているのか 例) 生活や仕事の不安定さ、激しい競争、見て見ぬふりなどその背景にあるものは何か</p> <p>第3回 現代社会を読み解く上で考えの基礎を作った理論の父・母の紹介</p> <p>第4回 現代社会の「女性学」と「男性学」</p> <p>第5回 グループディスカッション</p> <p>第6回 地域社会① 地域づくりは人づくり</p> <p>第7回 地域社会② ソーシャルキャピタル</p> <p>第8回 地域社会③ 若者は自治会活動になぜ参加しないのか</p> <p>第9回 地域社会④ 本当に地方消滅はあるのか</p> <p>第10回 グループディスカッション</p> <p>第11回 災害と社会① 災害は社会が引き起こす</p> <p>第12回 災害と社会② レジリエンスとは何か</p> <p>第13回 災害と社会③ ボランティアのあり方</p> <p>第14回 災害と社会④ 「復興」とは何かを考える</p> <p>第15回 グループディスカッション</p>
授業概要	日常の中に埋もれがちな身近なテーマをもとに、現代の日本社会が、どのように形成されているのか、社会的問題は何かなどを、社会学の観点から紹介する。
テキスト	指定テキストなし。資料は別途配布。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	テーマをもとにこれからの日本社会がどうなっていくのか、他人ごとにせず、創造力を高めるため、積極的なディスカッションの場を設ける。これは、他者に説得力をもって話すことができる力を身につけられる狙いからである。
評価方法	授業内に3～4回実施する課題小レポート（100%）
参考文献	
備考	



講義科目名称：ジェンダー論（60160）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
松田 澄子			

授業のテーマ及び到達目標	ジェンダーとは何かを学び、ジェンダーに関わる諸問題について様々な側面から検討します。 なぜジェンダーが問題なのか、またジェンダー問題を生み出すその社会的背景について分析し、解決のための取り組みについて考えます。
授業計画	<p>第1回 ジェンダーとは</p> <p>第2回 家庭・家族とジェンダー</p> <p>第3回 労働とジェンダー</p> <p>第4回 教育とジェンダー</p> <p>第5回 地域・社会とジェンダー</p> <p>第6回 政治とジェンダー</p> <p>第7回 憲法とジェンダー</p> <p>第8回 セクハラ、ドメスティック・バイオレンス</p> <p>第9回 身体とジェンダー</p> <p>第10回 戦争とジェンダー</p> <p>第11回 災害とジェンダー</p> <p>第12回 社会保障とジェンダー</p> <p>第13回 バックラッシュとその背景</p> <p>第14回 ジェンダー関連の法制度</p> <p>第15回 BD（DVD）</p>
授業概要	講義形式 DVD(BD) も利用して理解の一助とします。
テキスト	プリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	受講生の理解度を図るために、数回アンケートを行います。これにより、皆さんの感じ方や理解度を把握し、次回以降の授業に生かしていきたいと思っています。
評価方法	期末レポート課題（80%）と授業のへ参加度（20%）で評価します。
参考文献	
備考	

講義科目名称：人間発達論（60180）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
鈴木 一憲			

授業のテーマ及び到達目標	人間の発達を主な時期に区分してそれぞれの時期における心と体の特徴の理解を目標とする。		
授業計画	第1回	オリエンテーションに代えて アフリカ・コンゴのゴリラ孤児院におけるみなしゴリラの問題	
	第2回	成長、発育の概念と成長発育過程の時期区分 フロイトとエリクソン	
	第3～4回	母体と胎性期の特徴 女性の体、性周期と妊娠、胎児の発生	
	第5～6回	新生児・乳児期の特徴 体の発達と疾病	
	第7～8回	幼児期の特徴 自閉症、多動性注意欠陥障害	
	第9回	学童期の特徴 小児肥満、栄養障害と心、不登校 小児肥満、栄養障害と心、不登校	
	第10回	思春期の特徴 思春期発来、性の分化とその障害、性同一性障害、摂食障害	
	第11回	青年期の特徴 仲間体験とユースカルチャー	
	第12回	成人前期の特徴 ヤマアラシのジレンマ、モラトリアム、スチューデントアパシー、ピーターパンシンドロームとシンデレラコンプレックス	
	第13回	成人中期の特徴 加齢変化（老化）	
	第14回	成熟期の特徴 空の巣症候群、更年期障害	
	第15回	老年期の特徴 認知障害、介護、ホスピス	
授業概要	各時期における心と体の特徴と獲得しなければならない課題を明らかにし、障がいを受けた場合について事例を交えて説明する。		
テキスト	なし。プリントを用いる。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	私たちはたくさんの悩みに囲まれてストレスに満ちた生活を送っています。この多くは人間の発達上当たり前のことだったり、当たり前のことを克服できなかった為だったりします。人間の発達を理解することで、今より少しばかり強く生きていけるような気がします。本年度は小レポートを求め、講義内容と自分の体験との結びつきを考えてもらいたいと思っています。参考書として服部祥子著「生涯人間発達論」医学書院があります。		
評価方法	期末レポート課題（100%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：健康と栄養（60190）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
鈴木道子、大和田浩子、山田英明、寒河江豊昭、佐塚正樹、金光秀子、山口光枝			

授業のテーマ及び到達目標	① 「健康」の概念と、健康を維持増進するための「栄養」の重要性を理解する。 ② 現在及び将来の実生活において、健康の維持増進に有用な食生活の実践方法を習得する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・健康と栄養について学ぶ意義</p> <p>第2回 栄養学の基礎と消化・吸収</p> <p>第3回 栄養と健康の関わり</p> <p>第4回 生活習慣病と栄養（生活習慣病の概念、生活習慣病と栄養との関わり）</p> <p>第5回 生活習慣病と栄養（糖尿病、高血圧症など疾患と栄養）</p> <p>第6回 低栄養と健康</p> <p>第7回 日本の食の歴史と地域性（山形県の食を中心に）</p> <p>第8回 日本の食の歴史と地域性（全国の食）</p> <p>第9回 「おいしさ」と調理の基礎</p> <p>第10回 食品の機能性と食品表示</p> <p>第11回 ライフステージごとの栄養（幼児期の栄養）</p> <p>第12回 ライフステージごとの栄養（学童期・思春期の栄養と時間栄養学）</p> <p>第13回 ライフステージごとの栄養（高齢期の栄養）</p> <p>第14回 たばこ・酒と健康</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	健康と栄養の基礎的事項を学んだあと、栄養の過不足による生じる健康障害、特に生活習慣病等の疾病と食、健康の維持増進のために有用な食生活の実践等について学ぶ。なお、栄養と食に関する専門家である米沢栄養大学の教員によるオムニバス授業とする。
テキスト	テキスト：使用しない。 必要な資料は、各授業のはじめに配付する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自らの食生活を振り返りながら、主体的に授業に臨むこと。
評価方法	授業内ミニテストの合計70% レポート30%
参考文献	参考書：中嶋洋子監修「改訂版 栄養の教科書」（新星出版社）
備考	

講義科目名称：芸術学（60200）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
石澤 靖典			

授業のテーマ及び到達目標	美術作品の見方や分析方法を学びます。美術が社会や歴史、文学をはじめとする他の芸術形式とどのような関係にあるかを理解し、作品に対して学問的にアプローチするための手法を身につけます。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2～5回 美術の歴史（概説）</p> <p>第6～11回 芸術の方法論</p> <p>第12～15回 美術作品の分析</p>
授業概要	前半ではおもに西洋の美術作品を例に挙げながら、様式論や図像学、心理学的アプローチなどの方法論を解説し、後半では作品分析を実践するための具体例を提示します。
テキスト	とくに教科書は指定しません。参考書については随時授業中に紹介します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業の内容について関心を引くテーマがあれば、自分なりに参考書を読むなどして、さらに知見を深めるとよいでしょう。
評価方法	筆記試験と授業への参加度により評価します。
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
鈴木 久美			

授業のテーマ及び到達目標	主としてワープロソフトのワードの基本的操作を習得します。ワードが使えるようになったあとでプレゼンテーション用にパワーポイント（プレゼンテーション用ソフト）の基本的操作を習得します。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 パソコンの起動と終了・メール設定</p> <p>第3回 パソコンの基本操作①：タイピング</p> <p>第4回 パソコンの基本操作②日本語入力・Wordの基本操作</p> <p>第5回 レイアウトと書式設定①：文字の修飾など</p> <p>第6回 レイアウトと書式設定②：罫線など</p> <p>第7回 表の作成①：表の作成</p> <p>第8回 表の作成②：文字列を表にする・レイアウトと書式設定：ルビなど</p> <p>第9回 印刷・課題①：Wordの基本操作</p> <p>第10回 ビジネス文書①：社内文書</p> <p>第11回 ビジネス文書②：社外文書</p> <p>第12回 図の挿入</p> <p>第13回 課題②：ビジネス文書</p> <p>第14回 パワーポイントの基本操作</p> <p>第15回 課題：総合</p>
授業概要	講義では、毎回、学習テーマを設定し、操作方法を説明しながら一緒に操作練習をしたあと、学習テーマに沿った課題をこなすことで基本的操作を習得できるようにします。
テキスト	資料を適宜配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	講義ではパソコンが苦手な人やあまり利用したことのない人を基準に授業を構築しているので、チャレンジしてみませんか？
評価方法	授業内課題（25%×2回）、期末課題（50%）。
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
小池 隆太			

授業のテーマ及び到達目標	主としてワープロソフトの基本的操作を習得します。授業の後半でプレゼンテーション用にパワーポイントの基本的操作を習得します。日商PC検定試験の3級に合格するレベルを目標とします。		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	パソコンとメールソフトの基本操作	
	第3回	タイピング、日本語入力、ファイル操作	
	第4回	ワープロソフトの基本操作	
	第5回	レイアウトと書式設定(1) (文字の修飾など)	
	第6回	レイアウトと書式設定(2) (罫線など)	
	第7回	表の作成(1) (基本)	
	第8回	表の作成(2) (応用)	
	第9回	レイアウトと書式設定(3) (拡張書式設定)	
	第10回	ビジネス文書(1) (社内文書)	
	第11回	ビジネス文書(2) (社外文書)	
	第12回	プレゼンテーションスライドの制作(1) (テーマ設定とアウトライン)	
	第13回	プレゼンテーションスライドの制作(2) (基本操作)	
	第14回	プレゼンテーションスライドの制作(3) (アニメーション効果)	
	第15回	総合課題	
授業概要	授業では毎回学習テーマを設定し、まずチュートリアルによる説明とともに操作を練習した後、対応する課題演習を行い、基本的操作を習得できるようにします。		
テキスト	資料を適宜配布する。		
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	「コンピュータは苦手」という方でも定式化されたやり方で文書作成を行うことで、ビジネス文書やプレゼンスライドを作ることは困難ではありません。気軽に取り組めるようになりましょう。		
評価方法	授業内課題 (70%)、期末課題 (30%)		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
清水 浩			

授業のテーマ及び到達目標	主としてワープロソフトの基本的操作を習得します。授業の後半でプレゼンテーション用にパワーポイントの基本的操作を習得します。日商PC検定試験の3級に合格するレベルを目標とします。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 パソコンの基本操作（タイピング／日本語入力、ファイル操作）</p> <p>第3回 Wordの基本操作</p> <p>第4回 レイアウトと書式設定(1)（文字の修飾など）</p> <p>第5回 レイアウトと書式設定(2)（罫線など）</p> <p>第6回 表の作成</p> <p>第7回 レイアウトと書式設定(3)（拡張書式設定）</p> <p>第8回 ビジネス文書(1)（社内文書）</p> <p>第9回 ビジネス文書(2)（社外文書）</p> <p>第10回 図形や図表を使った文書の作成</p> <p>第11回 写真を使った文書の作成</p> <p>第12回 Excelデータを利用した文書の作成</p> <p>第13回 PowerPointの基本操作</p> <p>第14回 プレゼンテーションスライドの制作</p> <p>第15回 総合課題</p>
授業概要	授業では毎回学習テーマを設定し、まずチュートリアルによる説明とともに操作を練習した後、対応する課題演習を行い、基本的操作を習得できるようにします。
テキスト	資料を適宜配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「コンピュータは苦手」という方でも定式化されたやり方で文書作成を行うことで、ビジネス文書やプレゼンスライドを作ることは困難ではありません。気軽に取り組めるようになりましょう。また、内容がはっきり伝わるように、発声や表現等を工夫して授業を進めます。
評価方法	授業内課題（70%）、期末課題（30%）
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
中川 恵			

授業のテーマ及び到達目標	この演習では主としてワープロソフトのMicrosoft Wordの基本操作を習得します。このほか、資料添付・ダウンロードの方法、Microsoft Power Pointの基本操作を習得します。		
授業計画	第1回	基本操作の確認(Office 365 の基本動作、電子メール送受信)	
	第2回	文書処理・作成演習 (ビジネス文書の基本)	
	第3回	文書処理・作成演習 (ビジネス文書のライティング技術)	
	第4回	文書処理・作成演習 (電子メールのライティング技術)	
	第5回	文書処理・作成演習 (ビジネス図解の基本)	
	第6回	文書処理・作成演習 (ビジネス文書の管理)	
	第7回	文書処理・作成演習 (プレゼンテーション)	
	第8回	中間まとめ	
	第9回	資料処理・作成演習 (Excelデータを利用した文書の作成)	
	第10回	資料処理・作成演習 (Powerpointを利用した文書の作成)	
	第11回	資料処理・作成演習 (Office365の諸機能)	
	第12回	資料処理・作成演習 (社内文書の作成)	
	第13回	資料処理・作成演習 (社外文書の作成)	
	第14回	資料処理・作成演習 (プレゼンテーションの作成)	
	第15回	総まとめ	
授業概要	毎時、演習課題を提示する。講義時間は課題の解説を行ったのちに、課題演習に取り組む。		
テキスト	なし		
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	演習の難易度は日商PC検定3級程度です。文書やプレゼンテーション用の資料の作成は、学生生活を送るうえでもレポート作成や報告の場面で不可欠です。本科目では、必要な場面で必要に応じた「技」を使えるよう、演習を通じて能力の伸長をめざします。		
評価方法	課題 (100%)		
参考文献			
備考			



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
松下 幸生			

授業のテーマ及び到達目標	この演習では主としてワープロソフトのMicrosoft WordおよびMicrosoft Power Pointの基本動作等を習得します。		
授業計画	第1回	基本操作の確認(Office 365 の基本動作、電子メール送受信)	
	第2回	漢字変換とタイピング	
	第3回	記号入力、文章入力、範囲指定、ショートカットキー	
	第4回	文字装飾、箇条書き、及び、ページ設定	
	第5回	表の作成と編集	
	第6回	文字列から表に変換	
	第7回	コメントの作成と差し込み文書	
	第8回	段組み、計算式の入力、及び、ワードアートの基本	
	第9回	ワードアート	
	第10回	地図の作成、及び、スクリーンショットの活用と留意点	
	第11回	スマートアート	
	第12回	グラフの編集	
	第13回	Power Pointの基本操作	
	第14回	Power Point資料の作成	
	第15回	総合演習	
授業概要	毎時、演習課題を提示します。講義時間は課題に取り組み、解説をおこないます。		
テキスト	なし		
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	情報処理能力は、就職や大学編入後に必要であるのみならず、学生生活を送るうえでもレポート作成や報告の場面で不可欠です。本科目では、必要な場面で必要に応じた「技」を使えるよう、演習を通じて能力の伸長をめざします。演習開始時の難易度は、日商PC検定3級程度です。		
評価方法	演習課題の提出(100%)		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
鈴木 久美			

授業のテーマ及び到達目標	1. 表計算の三つの基本機能(集計, グラフ表示, 簡易データベース)を習得する. 2. 関数の働きを理解して計算式を書き表すなど, 考える力と実践的な処理能力を養う.
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 データ入力の基本</p> <p>第3回 表のレイアウト</p> <p>第4回 数式の利用</p> <p>第5回 Sheetのリンク</p> <p>第6回 グラフの作成</p> <p>第7回 印刷・課題①</p> <p>第8回 課題①の解答・データベース</p> <p>第9回 関数①: if関数など</p> <p>第10回 関数②: sumif関数など・集計表</p> <p>第11回 ピボットテーブル</p> <p>第12回 課題②</p> <p>第13回 課題②の解答・第1回～第12回の復習</p> <p>第14回 期末課題</p> <p>第15回 期末課題の解答</p>
授業概要	講義は解説と演習によって構成される. 解説では一緒に操作練習をし, 演習では例題や課題を自分の頭で考えながらこなしていくことで, 表計算を実際の問題の処理に活用する能力を鍛える.
テキスト	資料を配布します.
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	Wordに比べて敷居が高く感じるかもしれませんが, 操作方法はWordに似ています。Excelが使えるようになるとWordよりも表現範囲が増えます。 進学・就職のお供にどうぞ♪
評価方法	確認課題2回(25%×2)と期末課題(50%)で評価します.
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
西川 友子			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【授業のテーマ】 オフィスツールとして有用で、ビジネスシーンにて利用頻度の高い表計算ソフトの使い方や機能についての理解を深める</p> <p>【到達目標】 1. 表計算ソフトウェアを使う上で必須の基本機能（表計算、グラフ作成、関数等）を習得します。 2. 特に表計算ソフトウェアの特徴である「関数」を理解し、事務処理能力と考える力の向上を図ります。</p>
授業計画	<p>第1回            ガイダンス                   授業では座席を指定します。</p> <p>                  座席指定するために必要な受講カードを、この回に提出をしてください。                   提出された受講カードをもとに座席を作成します。</p> <p>                  座席は第2回の授業前までに、A号館1Fの掲示板に掲示しますので、各自で確認してください。</p> <p>                  各回の授業ではタイピングの練習課題に取り組みます。タイピング練習課題ファイルは所定のフォルダに授業時間内に提出します。</p> <p>第2回            表計算ソフトウェアとは                   授業では表計算ソフトウェアとしてExcelを使用します。</p> <p>第3回            表計算ソフトウェアの基本的な操作                   課題1</p> <p>第4回            表を作成してみよう                   課題2</p> <p>第5回            数式を構築してみよう                   課題3</p> <p>第6回            関数を扱ってみよう                   課題4</p> <p>第7回            関数を用いて計算してみよう                   課題5</p> <p>第8回            関数を用いて状況に応じた計算や処理を行ってみよう                   課題6</p> <p>第9回            グラフの作り方やグラフの編集の方法を知ろう                   課題7</p> <p>第10回           いろいろなグラフを作成してみよう                   課題8</p> <p>第11回           いろいろなグラフを作成してみよう                   課題9</p> <p>第12回           簡易データベースとして利用してみよう                   課題10</p> <p>第13回           総合実践                   課題11</p> <p>第14回           総合実践                   課題12</p> <p>第15回           まとめ                    期末課題</p>
授業概要	<p>オフィスツールとして最も有用な表計算ソフトの使い方や機能を演習形式で習得し、履修者全員が大学での学びや活動に必要なレベルに到達するとともに、将来のビジネスパーソンとしての素養の基礎を身に付けます。</p> <p>なお、本講義では授業時の座席を指定します。</p>
テキスト	講義で使用する資料は適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>新しい知識や技術の習得は、毎回の授業(演習)を積み重ねていくことにより達成されるものです。授業を欠席しないことはもとより、授業内容を理解し習得できるよう留意して臨んで下さい。</p> <p>また、授業時の座席を指定します。指定された座席に着席してください。</p>

	<p>なお、3分の2以上を出席した人が評価の対象となります。</p>
評価方法	<p>授業内課題：45%、期末課題：40%、授業時タイピング課題：15%          なお、授業回数の3分の2以上を出席した人が評価の対象となります。</p> <p>座席表により出欠を取ります。万が一、出席確認後に遅れて入室した場合は、必ず、授業終了後に、所属学科、学籍番号、名前を名乗って、遅れた旨を自己申告してください。自己申告しない場合は欠席扱いのままとします。</p> <p>授業時課題は12回程度を予定しています。課題提出は締め切り日時を厳守です。指定された方法で期限内に提出してください。</p>
参考文献	<p>図書館には、Excelに関連する本が数多く所蔵されています。</p>
備考	<p>USBメモリと配布済み資料を毎回持参してください。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
松下 幸生			

授業のテーマ及び到達目標	実用性の高い操作を含め、Excelの基本的操作を習得します。		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	範囲選択と文字列の入力	
	第3回	移動、複写、貼り付け、行列の挿入と削除、オートフィル	
	第4回	四則演算、達成率、累計、前日比、伸び率、絶対参照、相対参照。関数式 (sum)	
	第5回	関数式 (average, max, min, count, counta)	
	第6回	関数式 (round, roundup, rounddown, mod, if)	
	第7回	表の編集、スタイル、条件付き書式	
	第8回	ハイパーリンク、グラフ作成の基礎	
	第9回	グラフ作成の練習	
	第10回	オートフィルター、ウィンドウの分割と固定	
	第11回	フィルター、テキストファイルをExcelで開く、ピボットテーブルの基礎	
	第12回	ピボットテーブルの練習	
	第13回	関数式 (vlookup)	
	第14回	関数式 (datedif, left, right mid, replace)	
	第15回	総合演習	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・操作方法をスクリーンに投影しながら、演習講義を進めていきます。</li> <li>・課題は講義直後、及び、講義終了直前に告知します。</li> </ul>		
テキスト	資料を適宜配布する。		
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	・電卓やそろばんを使うよりも、Excel計算が楽と感じられるようになるろう。		
評価方法	課題提出 (100%)		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
清水 浩			

授業のテーマ及び到達目標	この授業では、表計算の基本から活用までについて学習する。 1. 表計算の基本機能(集計、グラフ表示、簡易データベース)を習得する。 2. データの活用方法		
授業計画	第1回	基本操作(データ入力)	
	第2回	表の作成	
	第3回	数式の入力	
	第4回	表の印刷	
	第5回	複数シートの操作	
	第6回	グラフの作成	
	第7回	データベースの利用	
	第8回	関数の利用	
	第9回	表作成の活用	
	第10回	グラフの活用	
	第11回	グラフィックの利用	
	第12回	複数ブックの操作	
	第13回	データベースの活用	
	第14回	ピボットテーブルとピボットグラフの作成	
	第15回	総合課題	
授業概要	課題を作成しながら表計算ソフトの活用方法を学習する。検定を念頭に置いた応用課題を作成する。		
テキスト	資料を適宜配布する。		
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	この授業では、表計算ソフトの活用方法を学びます。ゆっくり、基本的な操作から学習していきます。パソコン初心者の方向けのペースと内容になっています。また、内容がはっきり伝わるように、発声や表現等を工夫して授業を進めます。		
評価方法	期末課題40%、定期課題40%、授業への参加度20%		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
西川 友子			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【授業のテーマ】 ビジネス文書の作成や業務データの処理・分析など、将来のビジネスパーソンとして必要な情報リテラシーの素養の基礎を身につける</p> <p>【到達目標】 1. 日商PC検定試験文書作成3級合格 2. 日商PC検定試験データ活用3級合格</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス [文書作成]では、ワープロソフトウェアとしてWordを使用します。 [データ活用]では、表計算ソフトウェアとしてExcelを使用します。</p> <p>授業では座席を指定します。</p> <p>座席指定するために必要な受講カードを、この回に提出をしてください。 提出された受講カードをもとに座席を作成します。</p> <p>座席は第2回の授業前までに、A号館1Fの掲示板に掲示しますので、各自で確認してください。</p> <p>各回の授業ではタイピングの練習課題に取り組みます。 タイピング練習課題ファイルは所定のフォルダに授業時間内に提出します。</p> <p>第2回 [文書作成] 社内文書の基本とその書き方</p> <p>第3回 [文書作成] 社外文書の基本とその書き方</p> <p>第4回 [文書作成] 表を含んだビジネス文書</p> <p>第5回 [文書作成] 図形を含んだビジネス文書</p> <p>第6回 [文書作成] 図表を含めたビジネス文書の作成</p> <p>第7回 [文書作成] 中間試験 [文書作成]中間試験では、日商PC検定試験文書作成3級程度の内容を出題します。試験時間は30分間です。試験終了後は自己採点を行います。</p> <p>第8回 [データ活用] 表の作成、計算処理、関数の利用</p> <p>第9回 [データ活用] さまざまな計算とその扱い</p> <p>第10回 [データ活用] グラフの作成</p> <p>第11回 [データ活用] データの集計</p> <p>第12回 [データ活用] データの集計とグラフ</p> <p>第13回 [データ活用] 中間試験 [データ活用]中間試験では、日商PC検定試験データ活用3級程度の内容を出題します。試験時間は30分間です。試験終了後は自己採点を行います。</p> <p>第14回 [文書作成] まとめ [文書作成]のまとめとして試験を実施します。試験では日商PC検定試験文書作成3級程度の内容を出題します。試験時間は30分間です。試験終了後は自己採点を行います。</p> <p>第15回 [データ活用] まとめ [データ活用]のまとめとして試験を実施します。試験では日商PC検定試験データ活用3級程度の内容を出題します。試験時間は30分間です。試験終了後は自己採点を行います。</p>
授業概要	<p>情報処理演習 I・情報処理演習 IIに引き続き、パソコンを利用した情報利活用について、毎回実践的に演習していくことにより将来のビジネスパーソンとしての素養の基礎を身に付けます。そして、ビジネスシーン等を意識した課題に取り組むことで「情報リテラシー」をさらに磨きます。</p> <p>なお、情報処理演習 Iおよび情報処理演習 IIで学んだ内容・技能は、すでに知っているのものとして演習を進めます。そのため、情報処理演習 Iおよび情報処理演習 IIの両方を履修済みであることが望ましいです。</p>

	また、授業時の座席を指定します。
テキスト	講義で使用する資料は適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この授業を通して学んだことを生かし、資格取得の一環として日商P C検定試験文書作成3級および日商P C検定試験データ活用3級の受験にチャレンジし、合格を勝ち取りましょう。
評価方法	<p>[文書作成] 中間試験 15%、[データ活用] 中間試験 15%、[文書作成] まとめの試験 20%、[データ活用] まとめの試験 20%、授業時課題提出 15%、タイピング練習課題 15%</p> <p>なお、授業回数の3分の2以上を出席した人がこの評価方法の対象となります。</p> <p>授業時課題は8回程度を予定しています。課題提出は締め切り日時を厳守です。指定された方法で期限内に提出してください。</p> <p>座席表により出欠を取ります。万が一、出席確認後に遅れて入室した場合は、必ず、授業終了後に、所属学科、学籍番号、名前を名乗って、遅れた旨を自己申告してください。自己申告しない場合は欠席扱いのままとします。</p>
参考文献	日商P C検定試験文書作成3級および日商P C検定試験データ活用3級に関するテキストが図書館などに数多く所蔵されています。
備考	<p>情報処理演習 I および情報処理演習 II で学んだ内容・技能はすでに知っているのものとして演習を進めます。</p> <p>USBメモリと配布済み資料を毎回持参してください。</p>



講義科目名称：応用情報処理演習Ⅱ（60270）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
伊豆田 義人			

授業のテーマ及び到達目標	目的は商業簿記の簿記一巡の手続きを理解し記帳方法を学ぶことにより、金の流れと簿記・会計学の基本的な知識とスキルを習得することである。
授業計画	<p>① 簿記の基本。仕訳（その1）</p> <p>② 仕訳（その2）</p> <p>③ 仕訳（その3）</p> <p>④ 総勘定元帳—転記（勘定口座）（その1）</p> <p>⑤ 総勘定元帳—転記（勘定口座）（その2）・人名勘定</p> <p>⑥ 補助記入帳</p> <p>⑦ 試算表</p> <p>⑧ 決算整理（その1）</p> <p>⑨ 決算整理（その2）</p> <p>⑩ 精算表</p> <p>⑪ 貸借対照表・損益計算書</p> <p>⑫ 伝票</p> <p>⑬ 総合問題1</p> <p>⑭ 総合問題2</p> <p>⑮ 総合問題3</p>
授業概要	日商簿記3級（商業簿記）程度の範囲を網羅する形で、仕訳、転記、試算表、決算、清算表、財務諸表の問題を解く。
テキスト	適宜資料を配付する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	演習を受講した後にはぜひ検定試験を受験してください。卒業後は、いろんな場面で役立つスキルなので、学生のうちに身につけておくの良いです。
評価方法	授業課題40%、期末課題60%
参考文献	
備考	

講義科目名称：応用情報処理演習Ⅲ（60280）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
伊豆田 義人			

授業のテーマ及び到達目標	「応用情報処理演習II」や「会計簿記演習」等の商業簿記を対象とした授業での学習を踏まえて、本授業の目的は日商簿記2級（商・工業簿記）で求められる知識とスキルを習得することである。
授業計画	<p>① 簿記一巡の手続き、損益計算書と貸借対照表</p> <p>② 商業簿記・個別論点－1</p> <p>③ 商業簿記・個別論点－2</p> <p>④ 商業簿記・個別論点－3</p> <p>⑤ 商業簿記・個別論点－4</p> <p>⑥ 商業簿記・個別論点－5</p> <p>⑦ 商業簿記・特殊論点－1</p> <p>⑧ 商業簿記・特殊論点－2</p> <p>⑨ 商業簿記・特殊論点－3</p> <p>⑩ 工業簿記・記入・勘定－1</p> <p>⑪ 工業簿記・記入・勘定－2</p> <p>⑫ 工業簿記・財務諸表</p> <p>⑬ 工業簿記・原価－1</p> <p>⑭ 工業簿記・原価－2</p> <p>⑮ 工業簿記・原価－3</p>
授業概要	日商簿記2級（商・工業簿記）の範囲を網羅するために学習範囲を二つに分けている。前半では、日本商工会議所3級で扱っていない商業簿記の個別論点と特殊論点を学習する。そして、後半では工業簿記の部分の習得する。授業の形式は、「応用情報処理演習II」と同様に問題を解きながら実践的に学ぶ。
テキスト	適時資料を配付する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	日商簿記3級（商業簿記）では主に中小規模の店舗における簿記・会計を扱っているのに対し、日商簿記2級（商・工業簿記）では大規模な店舗を含む商業および工業を網羅しているため、簿記・会計のより専門的な知識が求められる。このような専門知識と技術も持っている人は重宝されるので、ぜひ学習して検定を受検してください。
評価方法	授業課題40%、期末課題60%
参考文献	
備考	

講義科目名称：英語一（60310）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
横山 利夫			

授業のテーマ及び到達目標	基本的な英文法を理解し、やさしい英語で書かれた文章を理解できるようになること。		
授業計画	第1回	ガイダンス、unit 11 A Nice Hotel or an Ice Hotel?(Wh-疑問文)	
	第2回	Unit 12 Who Needs Real Money? (可算名詞/不可算名詞)、Unit 13 Smart Houses(代名詞)	
	第3回	Unit 13 Smart Houses(代名詞)、Unit 14 For the Love of Sports (形容詞)	
	第4回	Unit 15 Amusement Parks (形容詞の比較級と最上級)、Unit 16 It's ALL About Location (場所や移動を表す前置詞)	
	第5回	Unit 16 It's ALL About Location (場所や移動を表す前置詞)、Unit 17 Barak Obama (時を表す前置詞)	
	第6回	Unit 18 Motivation (副詞)、Unit 19 Pets (不定詞と動名詞)	
	第7回	Unit 19 Pets (不定詞と動名詞)、Unit 20 Teleworking (接続詞)	
	第8回	Unit 21 Our Precious Earth (従位接続詞)、Unit 22 Marriage (関係節)	
	第9回	Unit 22 Marriage (関係節)、Unit 1 Getting into Hot Water (Be動詞)	
	第10回	Unit 2 Tips for University Students (命令文)、Unit 3 What Happens to Our Trash? (一般動詞)	
	第11回	Unit 3 What Happens to Our Trash? (一般動詞)、Unit 4 To Your Health (現在進行形)	
	第12回	Unit 5 Hello Cutie (過去形)、Unit 6 Thank you John and Christopher (過去進行形)	
	第13回	Unit 6 Thank you John and Christopher (過去進行形)、Unit 7 Street Fashion & Fast Fashion (現在完了形)	
	第14回	Unit 8 It's in the Bag (受動態)、Unit 9 Cars of the Future (will /be going to)	
	第15回	Unit 9 Cars of the Future (will /be going to)、Unit 10 The Tsukiji Fish Market(助動詞)	
授業概要	英語が得意でない学生を対象にした内容です。しかし、毎回、予習は必要です。興味深いトピックについて書かれたやさしい文章を読んで、その中で用いられている文法事項を復習し、練習問題によって内容理解を確認します。		
テキスト	Robert Hickling, 市川泰弘編 Reading Sense 金星堂 2000円＋税		
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	出席を重視します。予習をして、どこが理解できないかをはっきりさせて授業に臨むこと。最初、辞書を使わないで英文を読み、理解できない部分をチェックします。その後、辞書で調べて、理解を深めるようにすること。		
評価方法	試験2回60点、主体的な授業参加40点(2/3以上の出席, 1回欠席6点減点、受講受理期間中も出席を取る)。		
参考文献			
備考	学年指定はしていないが、英語一は1年生に限って受講してもらいたい。1年次に外国語科目の単位を取得していない学生は2年生でも受講してかまわない。		

講義科目名称：英語二（60320）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
北山 長貴			

授業のテーマ及び到達目標	1. 基本的な英語の口語表現を理解できるようにすること。 2. 基礎的な英語の聞き取り能力をつけること。
授業計画	<p>第1回 はじめに：映画『イン・アメリカ』の鑑賞</p> <p>第2回 Unit 1: Do you Believe in Magic?</p> <p>第3回 Unit 2: Humidity</p> <p>第4回 Unit 3: A Game of Chance</p> <p>第5回 Unit 4: Halloween</p> <p>第6回 Unit 5: Colcannon</p> <p>第7回 Unit 6: I'm in Love with Anything that Lives</p> <p>第8回 Unit 7: "Desperado"</p> <p>第9回 Unit 8: Masselo Masela</p> <p>第10回 Unit 9: Do you believe in Aliens?</p> <p>第11回 Unit 10: Pray for the New Babay</p> <p>第12回 Unit 11: Mateo and the New Born Baby</p> <p>第13回 Unit 12: Say Goodbye to Frankie, Dad</p> <p>第14回 "ET"</p> <p>第15回 まとめ：英語の口語表現</p>
授業概要	・アイルランドから不法にアメリカに移住してきた4人家族のニューヨークでの生活を題材にした映画『イン・アメリカ』を題材に、基本的な英語の口語表現を理解できるようにすることと基礎的な英語の聞き取り能力をつけることを目標とします。また、英語を理解するのに必要な社会・文化的な背景にある様々なことを説明します。
テキスト	『イン・アメリカ』（英宝社）1900円（税別）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	解答の提示はPower Pointを使います。辞書を教室に持ってくるように（電子辞書も可）。
評価方法	小レポート（20%）と筆記試験（80%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：英語三（60330）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
横山 利夫			

授業のテーマ及び到達目標	この授業では読解力向上に主眼を置く。		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	Hibari Misora(美空ひばり)	
	第3回	Shizuka Arakawa (荒川静香)	
	第4回	Yoshiko Sakurai (櫻井よしこ)	
	第5回	Taguchi (田口 荘)	
	第6回	Hiraizumi (歴史遺産 平泉)	
	第7回	Rice (ハイテク米づくり)	
	第8回	Ecocircle (エコサークル)	
	第9回	Sustainable Paper Manufacturing (環境持続型製紙)	
	第10回	Frozen Foods (グルメ冷凍食品)	
	第11回	Anti-cancer Diet (アンチ・キャンサーダイエット)	
	第12回	Postal System Privatization (郵政民営化)	
	第13回	Disaster Prevation (防災)	
	第14回	JRA (日本中央競馬会)	
	第15回	Systems Integration (システム・インテグレーション)	
授業概要	テキストの文章には重要な語彙、イディオム、構文などが適切にちりばめられて、多様性に富んだ英文が学べるように配慮されている。テキストでは環境問題や文化、教養、健康、そしてビジネスをテーマとし、それに関連した題材が選ばれている。授業では全訳はしない。各受講者が予習して英文解釈に自信のない箇所を訳してもらい、授業担当者が構文や文法などについて説明し、誤りに気づいてもらうようにする。		
テキスト	編著者 クリストファー・ブルスミス他 ECO-INNOVATION AND PROSPERITY(エコイノベーションと繁栄) 南雲堂 1回目の授業はテキストなしで、参加してください。		
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	毎回予習が必要です。予習をして、どこがわからないかを受講者に授業で言ってもらい、その箇所を重点的に説明します。予習では最初本文を辞書なしで読み、わからない部分をチェックし、それから辞書などで調べること、そして、何度も音読することです。		
評価方法	主体的な授業参加40点（3分の2以上の出席が条件で、欠席1回につき5点減点。受講受理期間も出欠を取ります）。 試験2回（60点）		
参考文献			
備考	学年指定はしていないが英語三は2年生に限って受講してもらいたい。		

講義科目名称：英語四（60340）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
渡邊 真由美			

授業のテーマ及び到達目標	英語を聞くことに重点を置き、英語を意味にあるまとまりとして聞き取ることができるようにする。英語の基本的な構造を理解し、英文を読むことができるようになる。
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン 授業の進め方についての説明、サー・アーサー・コナン・ドイルと19世紀イギリスについて</p> <p>第2回 Unit 7 英文を読んで訳をつける。テキスト内の簡単な問題に答える。</p> <p>第3回 Unit 7 英文を読んで訳をつける。また、聞き取り問題を行う。</p> <p>第4回 Unit 7 小テスト、Unit 8 英文を読んで訳をつける。</p> <p>第5回 Unit 8 英文を読んで訳をつける。簡単な問題と聞き取りを行う。</p> <p>第6回 Unit 8 小テスト、Unit 9 英文を読んで訳をつける。</p> <p>第7回 Unit 9 英文を読んで訳をつける。簡単な問題を解き、聞き取り問題を行う。</p> <p>第8回 Unit 9 小テスト、Unit 10 英文を読んで訳をつける。</p> <p>第9回 Unit 10 英文を読んで訳をつける。簡単な問題を解き、聞き取り問題を行う。</p> <p>第10回 Unit 10 小テスト、Unit 11 英文を読んで訳をつける。</p> <p>第11回 Unit 11 英文を読んで訳をつける。簡単な問題を解き、聞き取り問題を行う。</p> <p>第12回 Unit 11 小テスト、Unit 12 英文を読んで訳をつける。</p> <p>第13回 Unit 12 英文を読んで訳をつける。簡単な問題を解き、聞き取り問題を行う。</p> <p>第14回 Unit 12 小テスト、まとめ 英文を読んで訳をつける。</p> <p>第15回 映像を見る グラナダTVが制作した、シャーロック・ホームズのシリーズから「ブナの木屋敷の冒険」を視聴する。</p>
授業概要	サー・アーサー・コナン・ドイルのシャーロック・ホームズシリーズから「ブナの木屋敷の冒険」を、簡単な英文にしたテキストを読みます。テキストは、聞き取り、英文のリーディングから構成されていて、聞き取り、英文和訳の両方を行っていきます。リーディングの部分は予習をしてきてもらって、授業のなかで訳を検討していきます。
テキスト	上村淳子他著 Mystery Tour with Sherlock Holmes センゲージラーニング 1,700円＋税
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	シャーロック・ホームズの英語を学びながら当時の雰囲気まで味わって読んでください。
評価方法	一つのユニットが終わるごとに小テストを行います（20点満点）。その結果で評価を行います。必ず受験してください。
参考文献	
備考	

講義科目名称：英語五（60350）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小林 亜希			

授業のテーマ及び到達目標	1. 平易な英文で書かれた英米の児童文学にまつわるエッセイを読むことによって、基本的な語彙力と文法力を身につけ、読解能力の基礎を涵養する。 2. 文中の英語表現を利用して、英作文の基礎を身につける。 3. 物語の背景にある英米文化の基礎を学ぶ。
授業計画	第1回 授業ガイダンス 第2回 英文読解の基礎1 第3回 英文読解の基礎2 第4回 Huckleberry Finn [Mark Twain] 第5回 The Call of the Wild [Jack London] 第6回 Anne of Green Gables [L.M. Montgomery] 第7回 Treasure Island [R.L. Stevenson] 第8回 Winnie-the-Pooh [A. A. Milne] 第9回 Peter Pan [J.M. Barrie] 第10回 Peter Rabbit [Beatrix Potter] 第11回 The Snowman/ Father Christmas [Raymond Briggs] 第12回 James and Giant Peach/ Matilda [Roald Dahl] 第13回 Paddington [Micheal Bond] 第14回 The Borrowers [Mary Norton] 第15回 Thomas the Tank Engine [R. W. Awdry]
授業概要	児童文学にまつわるエッセイ集 Children's Stories from England and America を一文ずつ訳読しながら進めます。読解に必要な文法事項と語彙は適宜詳しく解説します。また、文中の英語表現を利用して、平易な英作文をします。適宜、物語の背景にあるイギリスとアメリカの文化についても解説を加える予定です。
テキスト	Children's Stories from England and America 『総合・英米児童文学への招待』（英宝社）1680円（税込価格）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	・基本的な文法事項も詳しく解説し、できるだけ丁寧に読み進めたいと思います。 ・辞書を必ず用意し、毎回十分な予習を行って授業に臨んでください。
評価方法	試験（100%）。授業回数の3分の2以上の出席が条件です。
参考文献	適宜紹介します。
備考	

講義科目名称：英語六（60360）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
阿部 隆夫			

授業のテーマ及び到達目標	様々な分野の情報について読みとったり聞き取ったりし、目的に応じてその情報や考えを理解することができ、更には複数の領域を統合した言語活動が行えるようになること、CEFR-B2以上を目標にする。更にはTOEICやTOEFLで高得点をとる方法を伝授する。異文化間コミュニケーション能力を育成する。		
授業計画	<p>第1回 練習テスト1: No. 1からNo. 6まで, No. 147からNo. 148まで</p> <p>第2回 練習テスト1: 7から19まで, 149から151まで</p> <p>第3回 練習テスト1: 19から37まで, 152から154まで</p> <p>第4回 練習テスト1: 38から43まで, 155から156まで</p> <p>第5回 練習テスト1: 44から49まで, 157から158まで</p> <p>第6回 練習テスト1: 50から55まで, 159から160まで</p> <p>第7回 練習テスト1: 56から61まで, 161から163まで</p> <p>第8回 練習テスト1: 62から67まで, 164から167まで</p> <p>第9回 練習テスト1: 68から73まで, 168から171まで</p> <p>第10回 練習テスト1: 74から79まで, 172から175まで</p> <p>第11回 練習テスト1: 80から82まで, 176から180まで</p> <p>第12回 練習テスト1: 83から85まで, 181から185まで</p> <p>第13回 練習テスト1: 86から91まで, 186から190まで</p> <p>第14回 練習テスト1: 92から97まで, 191から195まで</p> <p>第15回 練習テスト1: 98から100まで, 196から200まで</p> <p>他、毎回冒頭に『異文化間英語コミュニケーション』の練習問題を扱う（事例1から事例14まで）</p>		
授業概要	TOEICの聞き取り問題と読解問題を毎回15問程度ずつ練習しながらTOEICの特徴を説明し高得点の為の練習方法を紹介する。各回の初めに社会言語学に基づいた異文化間コミュニケーション事例分析をする。		
テキスト	『公式TOEIC Listening & Reading 問題集vol.3』（国際ビジネスコミュニケーション協会2017）； タカオ・アベ『ピンときた！納得の異文化間英語コミュニケーション』（開拓社, 2011）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	予習が重視され、理解できなかった箇所に関しては次回に適時説明がされる。		
評価方法	平常の音読練習課題15%，提出課題25%，定期試験60%		
参考文献			
備考			



講義科目名称：英語七（60370）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
松井 真人			

授業のテーマ及び到達目標	高校までに学ぶ基礎的な英文法を理解し、平易な英文を読むことができるようになること。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	品詞	
	第3回	時制・進行形	
	第4回	基本5文型	
	第5回	現在完了	
	第6回	過去完了・未来完了	
	第7回	法助動詞	
	第8回	仮定法	
	第9回	関係節	
	第10回	関係副詞	
	第11回	分詞構文	
	第12回	冠詞	
	第13回	不定詞	
	第14回	受け身形	
	第15回	使役形	
授業概要	毎回、担当教員がテキストに沿って文法項目の解説をした後で、受講生は練習問題に取り組む。		
テキスト	藤田直也（著）『クラスで読む英文法』朝日出版社 1,944円（税込）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	できるだけ丁寧に解説していくが、分からない点があれば遠慮なく質問してほしい。また、予習と復習をしっかりとやってほしい。TOEICや英検などの検定試験や編入学試験を受験する人は、英文法をしっかりと勉強することをお勧めする。		
評価方法	授業への参加度25%、学期末試験75%		
参考文献	授業中に適宜資料を配布する。		
備考			

講義科目名称：英語八（60380）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
太田 裕子			

授業のテーマ及び到達目標	英語の読解能力養成を目指します。新時代の都市伝説、自己暗示の科学、フォロワーの数と孤独など最新の話題についての英文を読みます。やさしく読め、同じ内容の形を変えた英文に何度も触れることで、学習事項が定着しやすい構成になっています。速読の力がつきます。各章末には読んだ内容を人に伝えるためのタスクがあります。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 Unit 1 Truths and Falsehoods About Colds</p> <p>第3回 Unit 1 Truths and Falsehoods About Colds</p> <p>第4回 Unit 3 Does Having More Money Makes You Less Kind?</p> <p>第5回 Unit 3 Does Having More Money Makes You Less Kind?</p> <p>第6回 Unit 4 3,000 Friends and All Alone: The Loneliness of Social Media</p> <p>第7回 Unit 4 3,000 Friends and All Alone: The Loneliness of Social Media</p> <p>第8回 Unit 6 “Fake It Till You Make It” : The New Psychology of Body Language</p> <p>第9回 Unit 6 “Fake It Till You Make It” : The New Psychology of Body Language</p> <p>第10回 Unit 9 Online Privacy and Identity Theft</p> <p>第11回 Unit 9 Online Privacy and Identity Theft</p> <p>第12回 Unit 10 Robot Suit HAL</p> <p>第13回 Unit 10 Robot Suit HAL</p> <p>第14回 習熟度の確認</p> <p>第15回 習熟度の確認</p>
授業概要	教科書の問題に一通り取り組む予定です。READINGは一段落程度ずつ担当を決め、速読練習後に和訳を発表してもらい、精読を行います。和訳担当者は、英文を音読した後、和訳をします（クラス全体に聞こえるように気を付けましょう。）和訳担当者は予め和訳を紙に書いてきましょう。（和訳のスキルは速読のスキルとは異なります。日本語として自然な訳を心がけましょう。）
テキスト	Reading Cycle循環型で学ぶリーディング演習 金星堂（2016）1,900円（税別） ISBN978-4-7647-4024-2 卯城祐司、名畑目真吾、長谷川佑介、木村雪乃、濱田彰、Peter Serafin、Xanthe Smith Serafin 著
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業参加も評価の対象となるので、やむを得ない事情（通院、忌引き、部活動など）で欠席する/した場合は連絡をしましょう。遅刻した場合、出席確認しそこなう場合があるので、授業後に一言断るようになります。正当な理由のない欠席、無断欠席は授業参加の評価を下げることになります。
評価方法	授業で読んだところの内容理解、文法事項、語彙に関する筆記試験を行います。 グループワークへの参加、提出物も評価の対象とします。 期末試験60%、授業参加（小テスト、提出物など）50%
参考文献	音読MAX（2012）南雲堂 1,400円＋税 黒川裕一著 ISBN978-4-523-26512-2
備考	

講義科目名称：英語九（60390）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
金子 淳			

授業のテーマ及び到達目標	<p>1. 異文化コミュニケーションに関する英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。</p> <p>2. 世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解することができる。</p> <p>3. 英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 どうしたら英語を身につけることができるのか？</p> <p>第2回 Communicating Across Cultures イン트로ダクション</p> <p>第3回 「Context」について High-ContextかLow-Contextか</p> <p>第4回 「Evaluating」について Indirect Negative FeedbackかDirect Negative Feedbackか</p> <p>第5回 「Persuading」について 西洋と東洋</p> <p>第6回 「Persuading」について Principles-firstかApplications-firstか</p> <p>第7回 「Leading」について EgalitarianかHierarchicalか</p> <p>第8回 「Deciding」について ConsensualかTop-downか</p> <p>第9回 「Trusting」について Task-basedかRelationship-basedか</p> <p>第10回 「Disagreeing」について ConfrontationalかAvoids confrontationか</p> <p>第11回 「Scheduling」について Liner-timeかFlexible-timeか</p> <p>第12回 ディスカッション</p> <p>第13回 Culture Mapの作成</p> <p>第14回 「権力格差」と「個人と集団」</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	異文化コミュニケーションのテキストを読みながら、リーディングの力を養います。異文化理解の素養を養うと同時にリーディングの力をつけることを狙いとします。
テキスト	使用しません。適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	きちんと予習をして、授業に臨んで下さい。授業の後は、必ず復習をするようにして下さい。
評価方法	授業中に課す課題40% + 複数回の小テスト40% + 受講する姿勢20%
参考文献	Meyer, Erin. (2015) The Culture Map. Public Affairs.
備考	

講義科目名称：英会話A（日・社）（60400）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
マーニ・タヴァコリ			

授業のテーマ及び到達目標	The purpose of this class is to learn how to use words and simple expressions that will help students to express themselves clearly and correctly in daily activities. Students will also learn how to improve their understanding of spoken English.		
授業計画	第1回	Introduction to the Course	
	第2回	Likes and Dislikes	
	第3回	Food	
	第4回	Restaurant English	
	第5回	My Hometown	
	第6回	Holidays and Festivals	
	第7回	Movies and TV Shows	
	第8回	Audiovisual	
	第9回	Airplane	
	第10回	Immigration	
	第11回	Hotel	
	第12回	Superstitions	
	第13回	Game	
	第14回	Review	
	第15回	Test Preparation	
授業概要	In each class, the teacher will teach basic phrases to discuss a general topic. Students will then be divided into small groups to practice the phrases and discuss the topic in English. The teacher will supervise the discussions and answer any questions the students may have.		
テキスト	There is no textbook for this class. Students will take notes. Also, students are asked to bring a Japanese-English/English-Japanese Dictionary, or an electric dictionary.		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	Don't be afraid to speak in English. English is fun! Participate enthusiastically in class activities. A goof attitude makes a strong learning environment.		
評価方法	50% of the grade will be based on attendance and class participation. 50% will be based on a final interview exam.		
参考文献			
備考			

講義科目名称：英会話B（国）（60410）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
マーニ・タヴァコリ			

授業のテーマ及び到達目標	The purpose of this class is to learn how to use words and simple expressions that will help students to express themselves clearly and correctly in daily activities. Students will also learn how to improve their understanding of spoken English.		
授業計画	第1回	Introduction to the Course	
	第2回	Likes and Dislikes	
	第3回	Food	
	第4回	Restaurant English	
	第5回	My Hometown	
	第6回	Holidays and Festivals	
	第7回	Movies and TV Shows	
	第8回	Audiovisual	
	第9回	Airplane	
	第10回	Immigration	
	第11回	Hotel	
	第12回	Superstitions	
	第13回	Game	
	第14回	Review	
	第15回	Test Preparation	
授業概要	In each class, the teacher will teach basic phrases to discuss a general topic. Students will then be divided into small groups to practice the phrases and discuss the topic in English. The teacher will supervise the discussions and answer any questions the students may have.		
テキスト	There is no textbook for this class. Students will take notes. Also, students are asked to bring a Japanese-English/English-Japanese Dictionary, or an electric dictionary.		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	Don't be afraid to speak in English. English is fun! Participate enthusiastically in class activities. A good attitude makes a strong learning environment.		
評価方法	50% of the grade will be based on attendance and class participation. 50% will be based on a final interview exam.		
参考文献			
備考			

講義科目名称：英会話C (60420)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
マーニ・タヴァコリ			

授業のテーマ及び到達目標	The purpose of this class is to learn how to use words and simple expressions that will help students to express themselves clearly and correctly in daily activities. Students will also learn how to improve their understanding of spoken English.		
授業計画	第1回	Introduction to the Course	
	第2回	Describing `People	
	第3回	Family	
	第4回	Comparison with Adjectives	
	第5回	Numbers	
	第6回	Shopping	
	第7回	Time	
	第8回	Audiovisual	
	第9回	Music	
	第10回	Fast Food	
	第11回	American Money	
	第12回	Health	
	第13回	Hobbies and Free Time	
	第14回	Review	
	第15回	Test Preparation	
授業概要	In each class, the teacher will teach basic phrases to discuss a general topic. Students will then be divided into small groups to practice the phrases and discuss the topic in English. The teacher will supervise the discussions and answer any questions the students may have. The contents of this class are different from English Conversation A and English Conversation B.		
テキスト	There is no textbook for this class. Students will take notes. Also, students are asked to bring a Japanese-English/English-Japanese Dictionary, or an electric dictionary.		
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	Don't be afraid to speak in English. English is fun! Participate enthusiastically in class activities. A good attitude makes a strong learning environment.		
評価方法	50% of the grade will be based on attendance and class participation. 50% will be based on a final interview exam.		
参考文献			
備考			

講義科目名称：英会話D (60430)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
マーニ・タヴァコリ			

授業のテーマ及び到達目標	The purpose of this class is to learn how to use words and simple expressions that will help students to express themselves clearly and correctly in daily activities. Students will also learn how to improve their understanding of spoken English.		
授業計画	第1回	Introduction to the Course	
	第2回	Describing `People	
	第3回	Family	
	第4回	Comparison with Adjectives	
	第5回	Numbers	
	第6回	Shopping	
	第7回	Time	
	第8回	Audiovisual	
	第9回	Music	
	第10回	Fast Food	
	第11回	American Money	
	第12回	Health	
	第13回	Hobbies and Free Time	
	第14回	Review	
	第15回	Test Preparation	
授業概要	In each class, the teacher will teach basic phrases to discuss a general topic. Students will then be divided into small groups to practice the phrases and discuss the topic in English. The teacher will supervise the discussions and answer any questions the students may have. The contents of this class are different from English Conversation A and English Conversation B.		
テキスト	There is no textbook for this class. Students will take notes. Also, students are asked to bring a Japanese-English/English-Japanese Dictionary, or an electric dictionary.		
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	Don't be afraid to speak in English. English is fun! Participate enthusiastically in class activities. A good attitude makes a strong learning environment.		
評価方法	50% of the grade will be based on attendance and class participation. 50% will be based on a final interview exam.		
参考文献			
備考			

講義科目名称：海外語学実習（60450）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	3	選択必修・教職選択必修
担当教員			
英語英文学科専任教員			

授業のテーマ及び到達目標	英語圏におけるホームステイと語学学校での研修を通して、現地の人々と英語で交流し、異文化経験を積むこと。
授業計画	<p>事前実習（10時間）</p> <p>第1回 渡航準備1（パスポート等渡航に必要なものの申請方法）</p> <p>第2回 渡航準備2（外貨所持金の用意の仕方、海外旅行保険の内容と手続き方法）</p> <p>第3回 出発空港での搭乗手続き、航空券・搭乗券の仕組み、出国手続き</p> <p>第4回 現地空港到着後の入国手続き、税関手続き</p> <p>第5回 現地実習の仕組みと内容、ホームステイの方法</p> <p>現地実習（1日8時間実習、10日間で80時間） 実習前日までに日本から現地まで移動</p> <p>第1日 語学学校でのオリエンテーションとクラス分けなど</p> <p>第2日～ 最終日まで語学学校での授業等による実習</p>
授業概要	<p>今年度は9月にアメリカ（コロラド州）での実習を予定しています。英語英文学科の引率教員が渡航前に事前実習講座を10時間実施し、渡航前の準備、現地への移動方法、実習内容について説明します。1回目の事前実習は4月下旬とし、その後原則として毎月1回事前指導を予定しています。（日程は実習生と教員の時間割に合わせて調整します。）</p> <p>事前実習指導の後、実習国に渡航します。ホストファミリー宅に滞在しながら語学学校で授業を受けることによって、英語コミュニケーション練習をします。また、課外活動を通じて、異文化経験を積みます。</p> <p>期間：16日間 場所：アメリカコロラド州リトルトンにあるSpring International Language Center</p>
テキスト	資料と教材を事前指導および現地校にて適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	学科を問わず事前指導を受講した者は参加可能ですが、参加資格については下の「備考」をご覧ください。この実習を英語コミュニケーション学習のチャンスとしてください。安全、円滑な実習実現のため、最終的に渡航できるのは、やむを得ない理由の場合を除き、毎回の事前指導講座に出席した者としてします。したがって、参加するか、参加しないか迷っている人は事前指導講座に参加しなければなりません。
評価方法	渡航前の事前指導への参加（30%）、現地での活動状況（70%）。
参考文献	
備考	<p>参加資格：英語英文学科以外の学生が参加を希望する場合は実用英語検定準2級に合格（2018年4月まで）していること。</p> <p>上記の条件を満たさない場合は前期開講の「英会話A」または「英会話B」を受講していること。</p>



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
石田 雄樹			

授業のテーマ及び到達目標	1. フランス語の基本的な文法や表現を理解し、簡単なコミュニケーションができる。 2. フランス文化について理解を深める。
授業計画	第1回           イントロダクション  第2～3回       第0課：アルファベ・綴り字の読み方  第4～7回       第1課：日常のあいさつ・主語人称代名詞・動詞être  第8～11回      第2課：名詞と不定冠詞・指示代名詞・形容詞  第12～15回    第3課：第一群規則動詞・定冠詞・疑問文 ※教科書を中心に進めますが、進度は受講者の理解に合わせて、調整します。
授業概要	フランス語を初めて学ぶ学生向けの講義です。基礎文法とフランス語による簡単な日常会話を学習します。また必要に応じて、音楽CDなどを用い、フランス文化について理解を深めます。
テキスト	藤田裕二、東海麻衣子『Tarte Tatin』（タルト・タタン）、駿河台出版社、2300円。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学の上達には自主的な学習が不可欠です。授業の予習と復習をするだけでフランス語の理解は飛躍的に高まります。またCDやインターネットを使い、フランス語の発音に慣れることも大切です。
評価方法	期末試験の結果（50%）、授業への参加度（20%）、課題提出（30%）の三項目によって評価を行います。
参考文献	
備考	

講義科目名称：フランス語二（60470）

授業コード：60471 60472

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
石田 雄樹			

授業のテーマ及び到達目標	1. フランス語の基本的な文法や表現を理解し、簡単なコミュニケーションができる。 2. フランス文化について理解を深める。
授業計画	第1回           イントロダクション  第2～3回       前期の復習  第4～7回       第4課：動詞avoir・否定文・人称代名詞の強勢形  第8～11回      第5課：動詞allerと近接未来・指示形容詞・動詞faire  第12～15回     第6課：所有形容詞・疑問形容詞・動詞pouvoir ※教科書を中心に進めますが、進度は受講者の理解に合わせて、調整します。
授業概要	「フランス語一」の履修学生を対象とした講義です。前期に引き続き、フランス語の基礎文法・日常会話を勉強します。必要に応じて、音楽CDなどを用い、フランス文化に対する理解を深めます。
テキスト	藤田裕二、東海麻衣子『Tarte Tatin』（タルト・タタン）、駿河台出版社、2300円。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学の上達には自主的な学習が不可欠です。授業の予習と復習をするだけでフランス語の理解は飛躍的に高まります。またCDやインターネットを使い、フランス語の発音に慣れることも大切です。
評価方法	期末試験の結果（50%）、授業への参加度（20%）、課題提出（30%）の三項目によって評価を行います。
参考文献	
備考	

講義科目名称：フランス語三（60480）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
石田 雄樹			

授業のテーマ及び到達目標	1. フランス語の基本的な文法や表現を理解し、簡単なコミュニケーションができる。 2. フランス文化について理解を深める。
授業計画	第1回           イントロダクション  第2～3回       前年度の復習  第4～7回       第7課：疑問代名詞quiとque・il y aの表現・定冠詞の縮約  第8～11回      第8課：動詞vouloirとprendre・部分冠詞・女性形容詞の特殊な形  第12～15回     第9課：動詞venirと近接過去・第二群規則動詞・補語人称代名詞 ※教科書を中心に進めますが、進度は受講者の理解に合わせ、調整します。
授業概要	前年度「フランス語一」及び「フランス語二」の履修学生を対象とした講義です。基本的なフランス語の文法を勉強します。また、音楽CDなどを使い、フランス文化についての理解を深めます。
テキスト	藤田裕二、東海麻衣子『Tarte Tatin』（タルト・タタン）、駿河台出版社、2300円。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学の上達には自主的な学習が不可欠です。授業の予習と復習をするだけでフランス語の理解は飛躍的に高まります。またCDやインターネットを使い、フランス語の発音に慣れることも大切です。
評価方法	期末試験の結果（50%）、授業への参加度（20%）、課題提出（30%）の三項目によって評価を行います。
参考文献	
備考	

講義科目名称：フランス語四（60490）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
石田 雄樹			

授業のテーマ及び到達目標	1. フランス語の基本的な文法や表現を理解し、簡単なコミュニケーションができる。 2. フランス文化について理解を深める。
授業計画	第1回           イントロダクション  第2～3回       前期の復習  第4～7回       第10課：複合過去・中性代名詞enとy  第8～11回      第11課：半過去・動詞savoirとconnaitre  第12～15回     第12課：非人称構文・代名動詞・感嘆文quelとque ※教科書を中心に進めますが、進度は受講者の理解に合わせて、調整します。
授業概要	「フランス語三」の履修学生が対象の講義です。前期に引き続き、フランス語の基礎文法を勉強します。また必要に応じ、音楽CDなどを用い、フランス文化についての理解を深めます。
テキスト	藤田裕二、東海麻衣子『Tarte Tatin』（タルト・タタン）、駿河台出版社、2300円。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学の上達には自主的な学習が不可欠です。授業の予習と復習をするだけでフランス語の理解は飛躍的に高まります。またCDやインターネットを使い、フランス語の発音に慣れることも大切です。
評価方法	期末試験の結果（50%）、授業への参加度（20%）、課題提出（30%）の三項目によって評価を行います。
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 知広			

授業のテーマ及び到達目標	中国語の基礎力を養成することを目的とする。		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	声調と単母音	
	第3回	鼻母音と二重母音・三重母音	
	第4回	子音	
	第5回	卷舌音と軽声	
	第6回	挨拶	
	第7回	別れの挨拶	
	第8回	感謝とお詫び	
	第9回	返事と呼び掛け	
	第10回	買い物、肯定文と否定文	
	第11回	初対面の会話、是の用法	
	第12回	疑問詞、的の用法	
	第13回	数字	
	第14回	時間と日付	
	第15回	まとめ	
授業概要	中国語の発音、ローマ字表記システムであるピンイン、および挨拶など簡単な日常会話を学び、中国語の基礎の習得を目指す。また、中国の文化・社会についても随時紹介していく。		
テキスト	開講時に指定。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学の学習で重要なのは声を出すこと。授業では、恥ずかしがらずに大きな声を出しましょう。また、予習・復習をすれば、授業が楽しくなります。		
評価方法	授業での発言、および期末の筆記試験をもとに評価する。		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
解 澤春			

授業のテーマ及び到達目標	1. 中国語の発音の仕組みについて一通り理解し、正確に発音できるようになります。 2. 中国語の基本文型および常用される語彙を身につけます。
授業計画	<p>第1回 授業の進め方とガイダンス</p> <p>第2回 中国語の音節、声調</p> <p>第3回 単母音、複母音</p> <p>第4回 子音、無気音と有気音</p> <p>第5回 反り舌音、鼻音を伴う母音</p> <p>第6回 声調の組み合わせ、声調変化</p> <p>第7回 発音編のまとめ</p> <p>第8回 名前の言い方、人称代名詞</p> <p>第9回 動詞“是”</p> <p>第10回 助詞“的”</p> <p>第11回 基本語順 S + V + O</p> <p>第12回 連動文</p> <p>第13回 助動詞“想”</p> <p>第14回 動詞“有”、指示代名詞</p> <p>第15回 前期のまとめ</p>
授業概要	本授業は、主に中国語の発音、基礎文法と基本文型を学びます。教材に提示された単語や文型、文法ポイントおよび本文の説明をします。重点的に応用練習を行います。
テキスト	陳淑梅・劉光赤 共著『しゃべっていいとも中国語』（朝日出版社、CD付き）2,300円（税別） 辞書・参考書は開講時に紹介します。その他適宜資料をプリントして補充します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学は繰り返しと積み重ねが大切です。毎回十分な予習を行い、新しい単語を調べ、文法事項に目を通し、テキスト付録のCDを活用して本文を何度も音読してみます。わからない発音や文法事項は積極的に質問します。授業で習った内容が頭に残っているうちに復習します。 今年度も引き続きはっきりと伝わるように発声や表現を工夫したいと思っています。
評価方法	授業への参加度・授業での発言・小テスト（50%）、期末試験（50%）
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 知広			

授業のテーマ及び到達目標	「中国語一」での内容をふまえ、より高度な文法事項を学ぶ。		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	是の用法「AはBです」	
	第3回	指示語「これ・あれ・どれ」	
	第4回	形容詞述語文「Aは（とても）Bです」	
	第5回	否定文「AはBではない」	
	第6回	諾否疑問文	
	第7回	反復疑問文	
	第8回	選択疑問文	
	第9回	有と在の用法「AはBにいます」	
	第10回	疑問詞「何」「どのような」	
	第11回	疑問詞「誰」「どれ」「どこ」	
	第12回	疑問詞「なぜ」「どのように」	
	第13回	前置詞「私は駅に行きます」	
	第14回	助動詞「中国語が話せます」	
	第15回	まとめ	
授業概要	中国語の基本的な文法事項について講義する。毎回提示する重要構文を正確に理解し、使用できるように指導する。		
テキスト	開講時に指定。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学は暗記が必要。復習をして次の授業の準備をする習慣を身につけましょう。		
評価方法	授業での発言、および期末の筆記試験をもとに評価する。		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
解 澤春			

授業のテーマ及び到達目標	1. 「中国語一」の目標を深化させながら、中国語を学習するための基礎を確立します。 2. 簡単な中国語でコミュニケーションがとれるようになります。
授業計画	<p>第1回 前期の復習</p> <p>第2回 動詞“在”、方位詞</p> <p>第3回 前置詞 その1、場所を表す指示代名詞</p> <p>第4回 数の言い方、中国のお金の言い方</p> <p>第5回 形容詞述語文</p> <p>第6回 年月日、曜日、年齢の言い方</p> <p>第7回 量詞、動詞の重ね型</p> <p>第8回 時刻の言い方</p> <p>第9回 文末の“了”</p> <p>第10回 時間の長さの言い方</p> <p>第11回 動詞につく“了”</p> <p>第12回 前置詞 その2</p> <p>第13回 助動詞“可以”、“能”、“会”</p> <p>第14回 進行の表し方</p> <p>第15回 後期のまとめ</p>
授業概要	本授業は、さまざまな場面で使える中国語を学びます。中国語の基礎文法を一通り学ぶことによって、中国語に対する理解を深めます。教材に提示された単語や文型、文法ポイントおよび本文の説明をします。重点的に応用練習を行います。
テキスト	陳淑梅・劉光赤 共著『しゃべっていいとも中国語』（朝日出版社、CD付き）2,300円（税別） 辞書・参考書は開講時に紹介します。その他適宜資料をプリントして補充します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学は繰り返しと積み重ねが大切です。毎回十分な予習を行い、新しい単語を調べ、文法事項に目を通し、テキスト付録のCDを活用して本文を何度も音読してみます。わからない発音や文法事項は積極的に質問します。授業で習った内容が頭に残っているうちに復習します。 今年度も引き続きはっきりと伝わるように発声や表現を工夫したいと思っています。
評価方法	授業への参加度・授業での発言・小テスト（50%）、期末試験（50%）
参考文献	
備考	



講義科目名称：中国語三（60520）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 知広			

授業のテーマ及び到達目標	「中国語一」・「中国語二」で学んだ内容をふまえ、実践的な中国語の習得を目指す。		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	代名詞と肯定・否定文	
	第3回	時と金額	
	第4回	有と在	
	第5回	疑問文	
	第6回	出会いの表現	
	第7回	時と語順	
	第8回	様々な疑問詞	
	第9回	時間量	
	第10回	仮定の表現	
	第11回	出身の表現	
	第12回	前置詞「私は駅に行きます」	
	第13回	「的」の用法	
	第14回	チェックイン	
	第15回	まとめ	
授業概要	実践的な中国語を講義する。テキストの会話文を正確に理解した上で、自らも表現できるように指導する。		
テキスト	開講時に指定。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	中国語は初級からのレベルアップが難しい言語です。基礎事項を確認しつつ、応用力をつけましょう。		
評価方法	授業での発言、および期末の筆記試験をもとに評価する。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：中国語四（60530）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 知広			

授業のテーマ及び到達目標	「中国語三」で学んだ内容をふまえ、さらに実践的な中国語の習得を目指す。		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	相手の意向を尋ねる	
	第3回	宴席での会話	
	第4回	完了を表す	
	第5回	変化を表す	
	第6回	屋台街での会話	
	第7回	進行を表す	
	第8回	状態を表す	
	第9回	料理についての会話	
	第10回	経験を表す	
	第11回	動詞の重ね型	
	第12回	「少し」を表す	
	第13回	ビジネス会話	
	第14回	自己紹介	
	第15回	まとめ	
授業概要	より実践的な中国語を講義する。テキストの会話文を正確に理解した上で、自らも表現できるように指導する。最後には自由に自己紹介ができる程度の中国語力を習得させる。		
テキスト	開講時に指定。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	中国語一から三までに習得した知識をもとに、理解するだけでなく、考えて表現できる力を身につけてください。		
評価方法	授業での発言、および期末の筆記試験をもとに評価する。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：スポーツ実技一（60610）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			

授業のテーマ及び到達目標	個人種目スポーツ（テニス、バドミントン、卓球、ゴルフ）の基本的な技術、戦術あるいはルールなどにふれることで、スポーツの楽しみ方（実際にする、観るなど）を身につける。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業に関する説明</p> <p>第2回 屋内体力測定 自分自身の体力を把握する</p> <p>第3回 屋外体力測定 自分自身の体力を把握する</p> <p>第4回 バドミントン、卓球 種目の特性およびルールの理解、基本的技能の習得</p> <p>第5回 バドミントン、卓球 簡易ゲーム、シングルス</p> <p>第6回 バドミントン、卓球 ダブルス、リーグ戦①</p> <p>第7回 バドミントン、卓球 ダブルス、リーグ戦②</p> <p>第8回 ゴルフ、テニス 種目の特性およびルールの理解</p> <p>第9回 ゴルフ、テニス 基本的技能の習得</p> <p>第10回 ゴルフ、テニス 簡易ゲーム、シングルス①</p> <p>第11回 ゴルフ、テニス 簡易ゲーム、シングルス②</p> <p>第12回 ゴルフ、テニス ラウンド、ダブルス①</p> <p>第13回 ゴルフ、テニス ラウンド、ダブルス②</p> <p>第14回 バドミントン、卓球、テニス、ゴルフ 各自種目を選択し、グループごとに取り組む。</p> <p>第15回 バドミントン、卓球、テニス、ゴルフ 各自種目を選択し、グループごとに取り組む。</p>
授業概要	様々なラケット系種目を実施していきます。最初の時間にオリエンテーションを実施し受講者数を決定します。受講者数が決定した段階で実際の実施形態を指示します。
テキスト	特になし
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この時間は、個人種目のスポーツを通じて楽しく身体を動かす時間です。それぞれの種目を実際にやってみることで、身体を動かす楽しさはもちろん、それぞれの種目のおもしろさにもふれることができるでしょう。その中からみなさんが生涯楽しんでいけるスポーツにも出会えるかもしれません。スポーツが好きな人はもちろん、スポーツが苦手な人もまずは一緒にやってみましょう。みなさんのスポーツ熱が高まるような授業にしていきたいと考えています。
評価方法	平常点60% 主体的な授業参加度 知識40% ゲームでの観察またはレポート
参考文献	
備考	

講義科目名称：スポーツ実技二（60620）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
渡邊・佐々木			

授業のテーマ及び到達目標	個人種目スポーツ（テニス、バドミントン、卓球、ゴルフ）の基本的な技術、戦術あるいはルールなどにふれることで、スポーツの楽しみ方（実際にする、観るなど）を身につける。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業に関する説明	
	第2回	バドミントン、卓球 種目の特性およびルールの理解	
	第3回	バドミントン、卓球 基本的技能の習得	
	第4回	バドミントン、卓球 簡易ゲーム、シングルス①	
	第5回	バドミントン、卓球 簡易ゲーム、シングルス②	
	第6回	バドミントン、卓球 ダブルス、リーグ戦①	
	第7回	バドミントン、卓球 ダブルス、リーグ戦②	
	第8回	ゴルフ、テニス 種目の特性およびルールの理解	
	第9回	ゴルフ、テニス 基本的技能の習得	
	第10回	ゴルフ、テニス 簡易ゲーム、シングルス①	
	第11回	ゴルフ、テニス 簡易ゲーム、シングルス②	
	第12回	ゴルフ、テニス ラウンド、ダブルス①	
	第13回	ゴルフ、テニス ラウンド、ダブルス②	
	第14回	バドミントン、卓球、テニス、ゴルフ 各自種目を選択し、グループごとに取り組む。	
	第15回	バドミントン、卓球、テニス、ゴルフ 各自種目を選択し、グループごとに取り組む。	
授業概要	様々なラケット系種目を実施していきます。最初の時間にオリエンテーションを実施し受講者数を決定します。受講者数が決定した段階で実際の実施形態を指示します。		
テキスト	特になし		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この時間は、個人種目のスポーツを通じて楽しく身体を動かす時間です。それぞれの種目を実際にやってみることで、身体を動かす楽しさはもちろん、それぞれの種目のおもしろさにもふれることができるでしょう。その中からみなさんが生涯楽しんでいけるスポーツにも出会えるかもしれません。スポーツが好きな人はもちろん、スポーツが苦手な人もまずは一緒にやってみましょう。みなさんのスポーツ熱が高まるような授業にしていきたいと考えています。		
評価方法	平常点60% 主体的な授業参加度 知識40% ゲームでの観察またはレポート		
参考文献			
備考			

講義科目名称：スポーツ実技三（60630）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			

授業のテーマ及び到達目標	球技スポーツ（バスケットボール、バレーボール、フットサル、ソフトボール）を楽しみながら、それぞれの種目の基本的な技術、戦術あるいはルールなどにふれることで、スポーツの楽しみ方（実際にする、観るなど）を身につける。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業の説明	
	第2回	屋内体力測定 自分自身の体力を把握する。	
	第3回	屋外体力測定 自分自身の体力を把握する。	
	第4回	バレーボールまたはフットサル 種目およびルールの理解、基本的な技能の習得	
	第5回	フットサルまたはフットサル 簡易ゲーム、リーグ戦①	
	第6回	フットサルまたはフットサル 簡易ゲーム、リーグ戦②	
	第7回	フットサルまたはフットサル リーグ戦③	
	第8回	ソフトボール 種目およびルールの理解、基本的な技能の習得	
	第9回	ソフトボール 簡易ゲーム、リーグ戦①	
	第10回	ソフトボール リーグ戦②	
	第11回	バスケットボール 種目およびルールの理解、基本的な技能の習得	
	第12回	バスケットボール 簡易ゲーム、リーグ戦①	
	第13回	バスケットボール リーグ戦②	
	第14回	まとめ① バレーボール、フットサル、ソフトボール、バスケットボールの中から各自種目を選択し、グループごとに試合を行う	
	第15回	まとめ② バレーボール、フットサル、ソフトボール、バスケットボールの中から各自種目を選択し、グループごとに試合を行う	
授業概要	上記の種目について、1種目につき3時間程度ずつ実技を実施していきます。最初の時間にオリエンテーションを実施し、受講者数を決定します。受講者数が決定した段階で実際の実施形態を指示します。		
テキスト	特になし。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この時間はチームスポーツを対象とした時間です。みなさん1人1人には、例えば、右利きの人左利き人、走るのが速い人遅い人など、それぞれ特徴があります。仲間同士でその特徴を生かし合いながら、チームでスポーツをする楽しさを味わってください。また、ゲーム中の戦術や技術にふれれば、これらのスポーツを観るときに新たな楽しみ方が増えます。みなさんがこの時間を楽しみに思い、より意欲的に参加できるような時間にしていきたいと思えます。		
評価方法	平常点60% 主体的な授業参加度 知識40% ゲームでの観察またはレポート		
参考文献			
備考			

講義科目名称：スポーツ実技四（60640）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
渡邊・佐々木			

授業のテーマ及び到達目標	球技スポーツ（バスケットボール、バレーボール、フットサル、ソフトボール）を楽しみながら、それぞれの種目の基本的な技術、戦術あるいはルールなどにふれることで、スポーツの楽しみ方（実際にする、観るなど）を身につける。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業の説明</p> <p>第2回 バレーボール 種目およびルールの理解、基本的な技能の習得</p> <p>第3回 バレーボール 簡易ゲーム、リーグ戦①</p> <p>第4回 バレーボール リーグ戦②</p> <p>第5回 フットサル 種目およびルールの理解、基本的な技能の習得</p> <p>第6回 フットサル 簡易ゲーム、リーグ戦①</p> <p>第7回 フットサル リーグ戦②</p> <p>第8回 ソフトボール 種目およびルールの理解、基本的な技能の習得</p> <p>第9回 ソフトボール 簡易ゲーム、リーグ戦①</p> <p>第10回 ソフトボール リーグ戦②</p> <p>第11回 バスケットボール 種目およびルールの理解、基本的な技能の習得</p> <p>第12回 バスケットボール 簡易ゲーム、リーグ戦①</p> <p>第13回 バスケットボール リーグ戦②</p> <p>第14回 まとめ① バレーボール、フットサル、ソフトボール、バスケットボールの中から各自種目を選択し、グループごとに試合を行う</p> <p>第15回 まとめ② バレーボール、フットサル、ソフトボール、バスケットボールの中から各自種目を選択し、グループごとに試合を行う</p>
授業概要	上記の種目について、1種目につき3時間程度ずつ実技を実施していきます。最初の時間にオリエンテーションを実施し、受講者数を決定します。受講者数が決定した段階で実際の実施形態を指示します。
テキスト	特になし。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この時間はチームスポーツを対象とした時間です。みなさん1人1人には、例えば、右利きの人左利き人、走るのが速い人遅い人など、それぞれ特徴があります。仲間同士でその特徴を生かし合いながら、チームでスポーツをする楽しさを味わってください。また、ゲーム中の戦術や技術にふれば、これらのスポーツを観るときに新たな楽しみ方が増えます。みなさんがこの時間を楽しみに思い、より意欲的に参加できるような時間にしていきたいと思えます。
評価方法	平常点60% 主体的な授業参加度 知識40% ゲームでの観察またはレポート
参考文献	
備考	

講義科目名称：スポーツ実技五（60650）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			

授業のテーマ及び到達目標	様々なニュースポーツを経験することで、身体を動かすことの楽しさやこれまでに経験したことのないスポーツを行うことの楽しさを味わう。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業の進め方の説明</p> <p>第2回 屋内体力測定 自分自身の体力を把握する。</p> <p>第3回 屋外体力測定 自分自身の体力を把握する。</p> <p>第4回 スカイクロス 種目の特性とルールを理解。基本的な技能の習得。ゲーム、ラウンド①</p> <p>第5回 スカイクロス ゲーム、ラウンド②</p> <p>第6回 インディアカ 種目の特性とルールを理解。基本的な技能の習得。簡易ゲーム、リーグ戦①</p> <p>第7回 インディアカ リーグ戦②</p> <p>第8回 フリーテニス 種目の特性とルールを理解。基本的な技能の習得</p> <p>第9回 フリーテニス 簡易ゲーム、シングルス</p> <p>第10回 フリーテニス ダブルス</p> <p>第11回 ユニホック 種目の特性とルールを理解。基本的な技能の習得</p> <p>第12回 ユニホック 簡易ゲーム、リーグ戦①</p> <p>第13回 ユニホック 簡易ゲーム、リーグ戦②</p> <p>第14回 まとめ① スカイクロス、インディアカ、フリーテニス、ユニホックの中から各自選択し、グループごとにゲームを実施する。</p> <p>第15回 まとめ② スカイクロス、インディアカ、フリーテニス、ユニホックの中から各自選択し、グループごとにゲームを実施する。</p>
授業概要	様々なニュースポーツを1種目につき3時間程度ずつ実施していきます。授業回数の後半は、授業で実施した種目の中から、各個人が好きな種目を選択して実施します。最初の時間にオリエンテーションを実施し受講者数を決定します。受講者数が決定した段階で実際の実施形態を指示します。
テキスト	特になし
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この時間は様々なスポーツ種目を実施します。これまでにやったことのないスポーツも出てくることでしょう。新たな種目に挑戦することのおもしろさや、身体を動かすことの楽しさを味わってください。生涯楽しんでいけるスポーツと出会えるかもしれません。みなさんがより積極的にスポーツを楽しめるような時間にしたと思っています。
評価方法	平常点60% 主体的な授業参加度 知識40% ゲームでの観察またはレポート
参考文献	
備考	

講義科目名称：スポーツ実技六（60660）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
渡邊・佐々木			

授業のテーマ及び到達目標	様々なニュースポーツを経験することで、身体を動かすことの楽しさやこれまでに経験したことのないスポーツを行うことの楽しさを味わう。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業の進め方の説明	
	第2回	スカイクロス 種目の特性とルールの理解. 基本的な技能の習得	
	第3回	スカイクロス 簡易ゲーム, ラウンド①	
	第4回	スカイクロス ラウンド②	
	第5回	インディアカ 種目の特性とルールの理解. 基本的な技能の習得	
	第6回	インディアカ 簡易ゲーム, リーグ戦①	
	第7回	インディアカ リーグ戦②	
	第8回	フリーテニス 種目の特性とルールの理解. 基本的な技能の習得	
	第9回	フリーテニス 簡易ゲーム, シングルス	
	第10回	フリーテニス ダブルス	
	第11回	ユニホック 種目の特性とルールの理解. 基本的な技能の習得	
	第12回	ユニホック 簡易ゲーム, リーグ戦①	
	第13回	ユニホック 簡易ゲーム, リーグ戦②	
	第14回	まとめ① スカイクロス、インディアカ、フリーテニス、ユニホックの中から各自選択し、グループごとにゲームを実施する。	
	第15回	まとめ② スカイクロス、インディアカ、フリーテニス、ユニホックの中から各自選択し、グループごとにゲームを実施する。	
授業概要	様々なニュースポーツを1種目につき3時間程度ずつ実施していきます。授業回数の後半は、授業で実施した種目の中から、各個人が好きな種目を選択して実施します。最初の時間にオリエンテーションを実施し受講者数を決定します。受講者数が決定した段階で実際の実施形態を指示します。		
テキスト	特になし		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この時間は様々なスポーツ種目を実施します。これまでにやったことのないスポーツも出てくることでしょう。新たな種目に挑戦することのおもしろさや、身体を動かすことの楽しさを味わってください。生涯楽しんでいけるスポーツと出会えるかもしれません。みなさんがより積極的にスポーツを楽しめるような時間にしたと思っています。		
評価方法	平常点60% 主体的な授業参加度 知識40% ゲームでの観察またはレポート		
参考文献			
備考			



講義科目名称：スポーツ実技七（60670）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			

授業のテーマ及び到達目標	フィットネストレーニングを通じて楽しく身体を動かしながら自分の体調をチェックしたり体力レベルを維持・増進したりできるような手段を身につける。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業計画について</p> <p>第2回 屋内体力測定① 現在の自分自身の体力を把握する</p> <p>第3回 屋外体力測定 現在の自分自身の体力を把握する</p> <p>第4回 ウォーキング、ジョギング ウォーキング、ジョギングの効果や方法、適切なフォームについて</p> <p>第5回 エアロビクス 効果や実施方法について</p> <p>第6回 筋力トレーニング① 自重トレーニングの方法（上半身）</p> <p>第7回 筋力トレーニング② 自重トレーニングの方法（下半身）</p> <p>第8回 トレーニングメニューの作成 各自の体力に合わせたトレーニングメニューを作成する</p> <p>第9回 トレーニング実践① 各自作成したメニューに従い、ウォーキング、ジョギング、エアロビクス、筋力トレーニングを実施</p> <p>第10回 トレーニング実践② 各自作成したメニューに従い、ウォーキング、ジョギング、エアロビクス、筋力トレーニングを実施</p> <p>第11回 トレーニング実践③ 各自作成したメニューに従い、ウォーキング、ジョギング、エアロビクス、筋力トレーニングを実施</p> <p>第12回 トレーニング実践④ 各自作成したメニューに従い、ウォーキング、ジョギング、エアロビクス、筋力トレーニングを実施</p> <p>第13回 トレーニング実践⑤ 各自作成したメニューに従い、ウォーキング、ジョギング、エアロビクス、筋力トレーニングを実施</p> <p>第14回 トレーニング実践⑥ 各自作成したメニューに従い、ウォーキング、ジョギング、エアロビクス、筋力トレーニングを実施</p> <p>第15回 体力測定 各種トレーニング効果の評価</p>
授業概要	筋力トレーニング、ジョギング、エアロビクスなどを組み合わせて進めていきます。最初のオリエンテーションを実施し、受講者数を決定します。受講者数が決定した段階で実際の実施形態を指示します。
テキスト	特に指定しません。ジャージ等の身体を動かせる服装で、グラウンドでの実技の場合には運動用のシューズ、体育館での実技の場合には上履きとは別に体育館用のシューズを必ず準備してください。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自分自身の体調を管理するための知識や方法について学んでください。
評価方法	平常点60% 主体的な授業参加度 知識40% レポート
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			

授業のテーマ及び到達目標	フィットネストレーニングを通じて楽しく身体を動かしながら自分の体調をチェックしたり体力レベルを維持・増進したりできるような手段を身につける。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業計画について</p> <p>第2回 屋内体力測定 現在の自分自身の体力を把握する</p> <p>第3回 屋外体力測定 現在の自分自身の体力を把握する</p> <p>第4回 ウォーキング、ジョギング ウォーキング、ジョギングの効果や方法、適切なフォームについて</p> <p>第5回 エアロビクス 効果や実施方法について</p> <p>第6回 筋力トレーニング① 自重トレーニングの方法（上半身）</p> <p>第7回 筋力トレーニング② 自重トレーニングの方法（下半身）</p> <p>第8回 トレーニングメニューの作成 各自の体力に合わせたトレーニングメニューを作成する</p> <p>第9回 トレーニング実践① 各自作成したメニューに従い、ウォーキング、ジョギング、エアロビクス、筋力トレーニングを実施</p> <p>第10回 トレーニング実践② 各自作成したメニューに従い、ウォーキング、ジョギング、エアロビクス、筋力トレーニングを実施</p> <p>第11回 トレーニング実践③ 各自作成したメニューに従い、ウォーキング、ジョギング、エアロビクス、筋力トレーニングを実施</p> <p>第12回 トレーニング実践④ 各自作成したメニューに従い、ウォーキング、ジョギング、エアロビクス、筋力トレーニングを実施</p> <p>第13回 トレーニング実践⑤ 各自作成したメニューに従い、ウォーキング、ジョギング、エアロビクス、筋力トレーニングを実施</p> <p>第14回 トレーニング実践⑥ 各自作成したメニューに従い、ウォーキング、ジョギング、エアロビクス、筋力トレーニングを実施</p> <p>第15回 体力測定 各種トレーニング効果の評価</p>
授業概要	筋力トレーニング、ジョギング、エアロビクスなどを組み合わせて進めていきます。最初のオリエンテーションを実施し、受講者数を決定します。受講者数が決定した段階で実際の実施形態を指示します。
テキスト	特に指定しません。ジャージ等の身体を動かせる服装で、グラウンドでの実技の場合には運動用のシューズ、体育館での実技の場合には上履きとは別に体育館用のシューズを必ず準備してください。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自分自身の体調を管理するための知識や方法について学んでください。
評価方法	平常点60% 主体的な授業参加度 知識40% レポート
参考文献	
備考	

講義科目名称：スポーツ実技九（60690）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			

授業のテーマ及び到達目標	自然に触れ合いながら身体を動かす楽しみを味わえるようにする。
授業計画	<p>第1回 事前指導① アウトドアスポーツに関する知識</p> <p>第2回 事前指導② 夏山の自然およびリスクについて</p> <p>第3～14回 実習 カヌー、月山登山、グランドゴルフ、フィッシングなどの自然スポーツを行う。</p> <p>第15回 まとめ（事後指導）</p>
授業概要	カヌー、トレッキングなど自然の中で行うスポーツを楽しむ。事前、事後指導ならびに二泊三日の西川町月山での宿泊形式（コテージ）で行う。
テキスト	必要な物品等はオリエンテーションで指示します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自然の中で様々な体験をすることで、身体を動かす楽しさや爽快感を味わって欲しいと思います。
評価方法	参加状況（60%）とレポート（40%）によって総合的に評価する。
参考文献	
備考	

講義科目名称：スポーツ実技十（60700）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
池田 英治			

授業のテーマ及び到達目標	様々なスノースポーツを経験し、その基本的な技術を習得することで、冬期間に行う運動種目として活用できるようにする。
授業計画	<p>第1回 事前指導① スノースポーツについて、雪山でのリスク</p> <p>第2～14回 西川町月山周辺での実習 スノーシュー、スキー、クロスカントリースキー、スノーモービル</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	冬季野外活動種目であるスノーシュー、スキー、スノーモービル等を体験する。事前、事後指導ならびに二泊三日の西川町月山での宿泊形式（コテージ）で行う。
テキスト	必要な物品等はオリエンテーションで指示します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	雪山でのスノースポーツを通して、身体を動かす楽しさや爽快感を味わって欲しいと思います。
評価方法	参加状況（60%）とレポート（40%）によって総合的に評価する。
参考文献	
備考	

講義科目名称：健康理論（60710）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	選択・教職選択必修
担当教員			
加藤 守匡			

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の健康管理を行なう上で必要となる知識や健康づくりの関する様々な情報について学習する。</li> <li>・自分の健康管理を行う手法を学習する。</li> </ul>
授業計画	<p>1 健康づくりに関する各種取り組みの紹介</p> <p>2 自分自身の日常運動量及び体力について</p> <p>3 日頃の健康状態のセルフチェック法</p> <p>4 メンタルフィットネス</p> <p>5 健康と体力</p> <p>6 現代の学生生活と健康</p> <p>7 加齢と健康について</p> <p>8 まとめ</p>
授業概要	健康のためにどのようなことを実践しているか確認してもらい、健康に生きて行くためには、日常生活でどのような点に注意を置き、どのような生活スタイルを身につけたらよいかについて資料等を通して学習していく。
テキスト	資料を適宜配布します。 参考資料：日経サイエンス <毎月発刊されており本学図書館にあります。健康関連の最新情報も知ることができます。>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	健康に対する知識を習得し、自ら実践できるきっかけとなればと思います。この講義を通して自分の体の状態や健康に対して関心を高めて下さい。
評価方法	期末レポート課題（50％）、授業への参加度（50％）で評価します。
参考文献	
備考	

講義科目名称：スポーツ文化論（60720）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			

授業のテーマ及び到達目標	競技スポーツ（オリンピックやプロスポーツ）と生涯スポーツ（楽しみや健康のためのスポーツ）の2つの側面から、スポーツ界の現状を知り、スポーツの持つ様々な魅力や問題点に触れることで、スポーツの味方や考え方を深める。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	日本におけるスポーツ文化① 部活動	
	第3回	日本におけるスポーツ文化② スポーツクラブ	
	第4回	世界におけるスポーツの歴史	
	第5回	日本におけるスポーツの歴史	
	第6回	古代オリンピック①	
	第7回	古代オリンピック②	
	第8回	近代オリンピック①	
	第9回	近代オリンピック②	
	第10回	日本におけるスポーツ文化③	
	第11回	スポーツとルール	
	第12回	メディアとスポーツ	
	第13回	子どもとスポーツ	
	第14回	健康とスポーツ	
	第15回	まとめ	
授業概要	スポーツに関する様々な内容を取り上げ、講義形式で行う。		
テキスト	特に指定しません。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	みなさんの身近なところから世界に至るまで、スポーツの様々な側面をみることで、これまで以上に深くスポーツを観ることができると思います。みなさんの意見や考えなども聞きながら、様々な見方や考え方を引き出せるよう工夫していきたいと思っています。		
評価方法	授業への参加度（20%）と授業後の小レポート（80%）で評価します。		
参考文献			
備考			